

五ヶ瀬川水系河川整備計画（原案）と五ヶ瀬川水系河川整備計画（案）  
修正箇所対比表

平成 19 年 7 月

国土交通省九州地方整備局

五ヶ瀬川水系河川整備計画（原案）と五ヶ瀬川水系河川整備計画（案）との対比表

意見	対応
五ヶ瀬川の源流付近はブナやモミ等の自然林が結構残っているため、「源流付近は、ブナ、モミ、ツガなどの自然林やスギ、ヒノキ、クヌギなどの山林等から成る山峡で」と記載してはどうか。	五ヶ瀬川の源流付近はブナやモミ等の自然林が残されており、クヌギも多いため、「源流付近は、 <b>ブナ、モミ、ツガなどの自然林やスギ、ヒノキ、クヌギなどの山林等から成る山峡で</b> 」と見直しました。

頁	五ヶ瀬川水系河川整備計画（原案）	五ヶ瀬川水系河川整備計画（案）
P3	<p>流域の自然環境は、豊かで多様性に恵まれ、流域内には、3つの国定公園と2つの県立自然公園が指定されています。北部は祖母山（1,756m）・傾山（1,602m）・大崩山（1,643m）などの高い山々がなす祖母傾国定公園及び祖母傾県立自然公園が指定されています。一方、流域西部は熊本県との境に九州中央山地国定公園が、山都町周辺は矢部周辺県立自然公園が指定され、豊かな自然環境を呈した地域となっており、下流域は平野部に住宅地及び工業地が存在し、海岸部は日豊海岸国定公園に指定された砂浜が広がっています。</p> <p>源流付近は、スギ、ヒノキなどの山林を中心とする山峡で、その一部の区間では巨石が点在し、自然河川の様相を呈した風景を見ることができます。源流部の山峡を抜け、阿蘇泥溶岩台地を侵食して形成されたV字形の峡谷を流下する上流部は、「高千穂峡」に代表される五ヶ瀬川峡谷として、国の名勝及び天然記念物に指定されており、秋の紅葉など四季に富んだ自然環境が観光資源となっており、年間約100万人を超える観光客が訪れます。</p>  <p>写真 1-1-1 五ヶ瀬川上流部（高千穂峡） 五ヶ瀬川峡谷として国の名勝、天然記念物に指定</p> <p>日之影町から北方町を流れる中流部は、その大部分が祖母傾公園（国定・県立公園）に指定されており、国の特別天然記念物に指定されているニホンカモシカが生息しているなど特有の自然環境を呈しています。その中でも綱ノ瀬川の鹿川溪谷、日之影川の見立溪谷に代表される風光明媚な景観は、宮崎県北の観光名所となっています。また、豊かな水量に恵まれ、大きな瀬や淵を有し、大型アユが捕れる川として全国に知られ、県内外から多くの釣り人が訪れています。</p>  <p>写真 1-1-2 五ヶ瀬川中流部 （天満橋から下流を臨む） 大型アユが捕れる川として全国的に知られている</p>	<p>流域の自然環境は、豊かで多様性に恵まれ、流域内には、3つの国定公園と2つの県立自然公園が指定されています。北部は祖母山（1,756m）・傾山（1,602m）・大崩山（1,643m）などの高い山々がなす祖母傾国定公園及び祖母傾県立自然公園が指定されています。一方、西部は熊本県との境に九州中央山地国定公園が、山都町周辺は矢部周辺県立自然公園が指定され、豊かな自然環境を呈した地域となっています。東部は平野部に住宅地及び工業地が存在し、海岸部は日豊海岸国定公園に指定された砂浜が広がっています。</p> <p>源流付近は、ブナ、モミ、ツガなどの自然林やスギ、ヒノキ、クヌギなどの山林等からなる山峡で、その一部の区間では巨石が点在し、自然河川の様相を呈した風景を見ることができます。源流部の山峡を抜け、阿蘇泥溶岩台地を侵食して形成されたV字形の峡谷を流下する上流部は、「高千穂峡」に代表される五ヶ瀬川峡谷として、国の名勝及び天然記念物に指定されており、秋の紅葉など四季に富んだ自然環境が観光資源となっており、年間約100万人を超える観光客が訪れます。</p>  <p>写真 1-1-1 五ヶ瀬川上流部（高千穂峡） 五ヶ瀬川峡谷として国の名勝、天然記念物に指定</p> <p>日之影町から延岡市西部を流れる中流部は、その大部分が祖母傾公園（国定・県立公園）に指定されており、国の特別天然記念物に指定されているニホンカモシカが生息しているなど特有の自然環境を呈しています。その中でも綱ノ瀬川の鹿川溪谷、日之影川の見立溪谷に代表される風光明媚な景観は、宮崎県北の観光名所となっています。また、豊かな水量に恵まれ、大きな瀬や淵を有し、大型アユが捕れる川として全国に知られ、県内外から多くの釣り人が訪れています。</p>  <p>写真 1-1-2 五ヶ瀬川中流部 （天馬大橋から下流を望む） 大型アユが捕れる川として全国的に知られている</p>

五ヶ瀬川水系河川整備計画（原案）と五ヶ瀬川水系河川整備計画（案）との対比表

意見	対応
3 行目のところは、希少種のみで普通の魚が記載されていないので「流水部には、コイ、フナ、オイカワなどの淡水魚のほか、カワアナゴ、カマキリなどの回遊魚が生息しています。」と記載してはどうか。	多様な自然環境を表現するため、計画案 P5 を「流水部には、コイ、フナ、オイカワなどの淡水魚のほか、カワアナゴ、カマキリなどの回遊魚が生息しています。」と見直しました。

頁	五ヶ瀬川水系河川整備計画（原案）	五ヶ瀬川水系河川整備計画（案）
P4	<p>延岡市を流れる下流部は、三輪で大瀬川を分派しますが、分派後の五ヶ瀬川は、河畔林が発達し、流水部には、カワアナゴ、カマキリなどが生息しています。一方、水量豊かな大瀬川には百間、三須、安賀多の瀬などのアユの産卵場が点在しています。また、アユ以外に、オイカワ、ウグイなどが生息するほか、三須付近の広大な中州や河川敷は、イワツバメやツリスガラなどの採餌場やカヤネズミの営巣地となっています。</p>  <p>写真 1-1-3 五ヶ瀬川下流部 延岡市街部を流れる</p> <p>大瀬川の河口部は、冬季の水量が少ない時期に河口閉塞が発生しています。この河口周辺の砂浜ではアカウミガメの産卵が見られ、大瀬川の鷺島橋下流のヨシ原にはセッカ、オオヨシキリなどが生息し、河畔林にはサギ類が営巣する多様な環境となっています。</p> <p>また、最大支川である北川は、湧水に支えられた湿地やワンドが点在し、ハマボウ、キタガワヒルムシロ（仮称）やオグラコウホネをはじめ 70 種以上もの貴重種が生育・生息しています。さらに、水衝部の崖地などの淵には河畔林が発達し、瀬はアユの産卵場となっています。五ヶ瀬川との合流域にはカワスナガニが広く分布し、川島、大峡より下流の水域にはコアマモ群落が形成されており、アカメなどの稚魚の生息の場となっています。</p>  <p>写真 1-1-4 北川 河畔林が発達し、瀬はアユの産卵場となっている</p>	<p>延岡市を流れる下流部は、三輪で大瀬川を分派しますが、分派後の五ヶ瀬川は、河畔林が発達し、流水部には、コイ、フナ、オイカワなどの淡水魚のほか、カワアナゴ、カマキリなどの回遊魚が生息しています。一方、水量豊かな大瀬川には百間、三須、安賀多の瀬などのアユの産卵場が点在しています。また、アユ以外に、オイカワ、ウグイなどが生息するほか、三須付近の広大な中州や河川敷は、イワツバメやツリスガラなどの採餌場やカヤネズミの営巣地となっています。</p>  <p>写真 1-1-3 五ヶ瀬川下流部 延岡市街部を流れる</p> <p>大瀬川の河口部は、冬季の水量が少ない時期に河口閉塞が発生しています。この河口周辺の砂浜ではアカウミガメの産卵が見られ、大瀬川の鷺島橋下流のヨシ原にはセッカ、オオヨシキリなどが生息し、河畔林にはサギ類が営巣する多様な環境となっています。</p> <p>また、最大支川である北川は、湧水に支えられた湿地やワンドが点在し、ハマボウ、キタガワヒルムシロやオグラコウホネをはじめ 70 種以上もの貴重種が生育・生息しています。さらに、水衝部の崖地などの淵には河畔林が発達し、瀬はアユの産卵場となっています。五ヶ瀬川との合流域にはカワスナガニが広く分布し、川島、大峡より下流の水域にはコアマモ群落が形成されており、アカメなどの稚魚の生息の場となっています。</p>  <p>写真 1-1-4 北川 河畔林が発達し、瀬はアユの産卵場となっている</p>

五ヶ瀬川水系河川整備計画（原案）と五ヶ瀬川水系河川整備計画（案）との対比表

意見	対応
北川の激特事業により、北川直轄管理区間もかなり整備されているので、「治水の沿革」では北川の激特事業についても記載する必要があるのではないか。	北川では過去に大規模な改修が行われた為、計画案 P8 に北川の激特事業について記載しました。

頁	五ヶ瀬川水系河川整備計画（原案）	五ヶ瀬川水系河川整備計画（案）
P7	<p>昭和 36 年度迄に、五ヶ瀬川改修工事の第一次課題である、市街地特殊堤の引堤嵩上等の工事がほぼ完了し、引き続き昭和 37 年度から昭和 38 年度より改修工事の主眼である隔流堤工事の準備的工事として、浜砂地区の引堤、掘削工事を完成させ、昭和 39 年度からは隔流堤工事の一部である鷲島地区の護岸に着手しました。</p> <p>昭和 39 年の河川法の制定を受け、昭和 41 年 7 月に五ヶ瀬川工事実施基本計画が策定されました。この計画は昭和 26 年の計画と基本的事項の変更はなく、延岡市街部を洪水より防御することを最大の目的とした計画でした。この計画に基づき現在までに、浜砂排水機場、大瀬川引堤及び護岸等の工事を実施しました。</p> <p>一方、河口部については、昭和 44 年に高潮堤防が概成しています。</p> <p>さらに、過去の出水時において漏水が発生した箇所、及び地質条件等から漏水のおそれがある区間については、漏水対策を実施しています。</p> <p>そして、近年の出水及び平成 9 年の河川法改正を受け、基準地点三輪における計画高水流量を 7,200m<sup>3</sup>/s とした河川整備基本方針が平成 16 年 1 月に策定されました。</p> <p>これまでに述べてきたとおり、五ヶ瀬川では多くの災害を受け、治水に対する努力を続けてきました。これまで受けた災害と治水の変遷を整理すると表 1-2-1 になります。</p> <p>また、治水に対する努力は治水事業だけではなく、流域の人々の生活に根付いています。過去から度重なる水害被害の防止を願った水神様が各所に奉られて、水神祭等が行われていたり、全国で現在 3 例しか確認できない「畳堤」が五ヶ瀬川市街部に延べ 980m 残っています。「畳堤」とは大正から昭和にかけて造られたもので、コンクリート製の枠に畳をはめこみ、越水を防ぐ努力をしていました。</p> <div data-bbox="320 1350 848 1732"> <p>五ヶ瀬川水系の水神様調査を実施しました</p> </div> <div data-bbox="320 1745 721 1774"> <p>図 1-2-1 五ヶ瀬川水系水神様マップ</p> </div> <div data-bbox="923 1333 1335 1539"> <p>写真 1-2-1 畳堤(畳をはめこむコンクリート製の枠)と水害水難防止を祈願する水神様</p> </div> <div data-bbox="878 1673 1368 1900"> <p>〔上から〕 〔正面から〕 コンクリートの枠</p> </div> <div data-bbox="899 1913 1124 1944"> <p>図 1-2-2 畳堤詳細図</p> </div>	<p>昭和 37 年度から改修工事の主眼である隔流堤工事の準備的工事として、浜砂地区の引堤、掘削工事に着手し、昭和 39 年度からは隔流堤工事の一部である鷲島地区の護岸に着手しました。</p> <p>昭和 39 年の河川法の制定を受け、昭和 41 年 7 月に五ヶ瀬川工事実施基本計画が策定されました。この計画は昭和 26 年の計画と基本的事項の変更はなく、延岡市街部を洪水より防御することを最大の目的とした計画でした。この計画に基づき現在までに、浜砂排水機場、大瀬川引堤及び護岸等の工事を実施しました。</p> <p>一方、河口部では、高潮対策についても大瀬川河口より 0.8k 付近までの区間を設定していますが、昭和 44 年に高潮堤防が概成しています。</p> <p>さらに、過去の出水時において漏水が発生した箇所、及び地質条件等から漏水のおそれがある区間については、漏水対策を実施しています。</p> <p>また、平成 9 年 9 月の台風 19 号により甚大な被害の発生した五ヶ瀬川水系北川では、宮崎県との合同事業として激甚災害対策特別緊急事業が採択され、事業の実施にあたっては安全のための治水事業と、環境保全の両立を図るため委員会を開催し実施方針についての議論を行いました。国管理区間の事業は平成 13 年度に、宮崎県管理区間の事業は平成 15 年度に完了しています。</p> <p>平成 16 年 1 月には、近年の出水及び平成 9 年の河川法改正を受け、基準地点三輪における計画高水流量を 7,200m<sup>3</sup>/s とした河川整備基本方針を策定しました。</p> <p>〔歴史的な治水施設の紹介〕</p> <p>治水に対する努力は治水事業だけではなく、流域の人々の生活に根付いています。過去から度重なる水害被害の防止を願った水神様が各所に奉られて、水神祭等が行われていたり、全国で現在 3 例しか確認できない「畳堤」が五ヶ瀬川市街部に延べ 980m 残っています。「畳堤」とは大正から昭和にかけて造られたもので、コンクリート製の枠に畳をはめこみ、越水を防ぐ努力をしていたもので、全国でも珍しい治水施設であり、住民自らが防災活動を行ってきた証ともいえる施設であり、現在では、地域の防災意識向上のシンボルとなっています。</p> <div data-bbox="1685 1549 2131 1879"> <p>五ヶ瀬川水系の水神様調査を実施しました</p> </div> <div data-bbox="1685 1885 2131 1915"> <p>図 1-2-1 五ヶ瀬川水系水神様マップ</p> </div> <div data-bbox="2220 1417 2605 1612"> <p>写真 1-2-1 畳堤(畳をはめこむコンクリート製の枠)と水害水難防止を祈願する水神様</p> </div> <div data-bbox="2175 1619 2694 1900"> <p>〔上から見た図〕 〔正面から見た図〕 コンクリートの枠</p> </div> <div data-bbox="2288 1900 2525 1929"> <p>図 1-2-2 畳堤詳細図</p> </div>

五ヶ瀬川水系河川整備計画（原案）と五ヶ瀬川水系河川整備計画（案）との対比表

意見	対応
北川で行われているカヌーツーリングやリバーフェスタの写真、さらに林業の活動写真を載せていただきたい。	河川空間の利用状況をより具体的に示すため計画案P26に「カヌーツーリング」と「リバーフェスタ」の写真を載せました。また、森林保全に取り組む関係機関との連携については計画案P81に「高千穂森の会」の写真を載せました。

頁	五ヶ瀬川水系河川整備計画（原案）	五ヶ瀬川水系河川整備計画（案）
P25	<p>2.2.2 河川空間の利用</p> <p>延岡市を貫流する下流域では、7月に五ヶ瀬川イカダ下り大会実行委員会により「五ヶ瀬川イカダ下り大会」が開催され、グループや企業で作成した色とりどりのイカダが五ヶ瀬川の自然を楽しみながら下ります。</p> <p>また、北川においても8月上旬に「北川川下り大会」が開催され美しい自然を楽しみ、流域住民の交流の場となっています。</p> <p>また、10月初旬から11月末にかけて、延岡市内3ヶ所において大がかりな「やな」が架けられ、落ちアユ漁が行われています。これは延岡市の秋の風物詩として全国的に有名であり、県内外から多くの観光客を集めており、また、アユを求めて釣り人が全国から集まるため、秋季は五ヶ瀬川の利用者数が最も多くなる季節となっています。</p> <p>延岡市中心部では、お盆の行事として、明治時代から伝わる精霊流し「流れ灌頂」が行われるなど、延岡市と五ヶ瀬川の繋がりは日常かつ歴史的にも強いものとなっています。</p> <div data-bbox="382 1073 878 1423" data-label="Image"> </div> <p data-bbox="382 1438 813 1495">写真 2-2-1 五ヶ瀬川イカダ下り大会（延岡市）</p> <div data-bbox="917 1073 1231 1438" data-label="Image"> </div> <p data-bbox="917 1446 1225 1503">写真 2-2-2 北川川下り大会（延岡市）</p> <div data-bbox="382 1570 878 1917" data-label="Image"> </div> <p data-bbox="382 1925 753 1957">写真 2-2-3 アユ釣り（延岡市）</p>	<p>2.2.2 河川空間の利用</p> <p>水面利用としては、延岡市では、7月に「五ヶ瀬川イカダ下り大会」が開催され、住民グループや企業で作成した色とりどりのイカダが五ヶ瀬川の自然を楽しみながら下ります。また、7月下旬には「リバーフェスタのべおか」が開催され、子供達が川で遊ぶことにより自然の大切さを学んでいます。</p> <p>また、北川においても8月上旬に「北川川下り大会」が開催されています。また、3月から11月にかけてはカヌーツーリングも行われ、美しい自然を楽しみながら、流域住民が交流する場となっています。</p> <p>延岡市中心部では、お盆の行事として、明治時代から伝わる精霊流し「流れ灌頂」が行われるなど、延岡市と五ヶ瀬川の繋がりは日常かつ歴史的にも強いものとなっています。</p> <p>また、10月初旬から11月末にかけて、延岡市内3ヶ所において大がかりな「やな」が架けられ、落ちアユ漁が行われています。これは五ヶ瀬川の秋の風物詩として全国的に有名であり、県内外から多くの観光客を集めています。また、アユを求めて釣り人が全国から集まるため、秋季は利用者数が多くなる季節となっています。</p> <div data-bbox="1626 1045 2131 1423" data-label="Image"> </div> <p data-bbox="1656 1432 2077 1463">写真 2-2-1 五ヶ瀬川イカダ下り大会</p> <div data-bbox="2160 1045 2680 1423" data-label="Image"> </div> <p data-bbox="2205 1442 2635 1474">写真 2-2-2 リバーフェスタのべおか</p> <div data-bbox="1715 1518 2050 1906" data-label="Image"> </div> <p data-bbox="1715 1925 2041 1957">写真 2-2-3 北川川下り大会</p> <div data-bbox="2160 1535 2680 1917" data-label="Image"> </div> <p data-bbox="2205 1925 2611 1957">写真 2-2-4 北川カヌーツーリング</p>

五ヶ瀬川水系河川整備計画（原案）と五ヶ瀬川水系河川整備計画（案）との対比表

意見	対応
北川で行われているカヌーツーリングやリバーフェスタの写真、さらに林業の活動写真を載せていただきたい。	河川空間の利用状況をより具体的に示すため計画案 P26 に「カヌーツーリング」と「リバーフェスタ」の写真を載せました。また、森林保全に取り組む関係機関との連携については計画案 P81 に「高千穂森の会」の写真を載せました。

頁	五ヶ瀬川水系河川整備計画（原案）	五ヶ瀬川水系河川整備計画（案）
---	------------------	-----------------

P26	<p>写真 2-2-4 アユやな (延岡市)</p> <p>写真 2-2-5 流れ灌頂 (延岡市, 亀井橋下)</p>	<p>写真 2-2-5 アユやな</p> <p>写真 2-2-6 流れ灌頂 (延岡市, 亀井橋下)</p> <p>写真 2-2-7 アユ釣り</p>
-----	---	--

延岡市街部を貫流する下流部は、高水敷も広く、グラウンド、ゴルフ場等が整備され、住民の散策の場、憩いの場ともなっています。

五ヶ瀬川の高水敷総面積は 106.50ha であり、このうち、18.71ha が公園・緑地等として利用されています。利用形態としては日常的なスポーツ・レクリエーション等が主体となり、花火大会などのイベントの場としても利用されています。

また、延岡市は、まちづくりの一環として「アスリートタウン構想」を掲げており、国際大会開催が可能な運動公園の建設や、河川堤防敷を利用したジョギングコースの整備構想が進められており、この構想を支援するため、河川環境整備事業として遊歩道や休憩施設、親水性のある環境護岸等の整備を行っています。

表 2-2-5 五ヶ瀬川河川敷利用状況 単位：件数（カ所）、面積（ha）

土地の占用											
公園・緑地		運動場				ゴルフ場 (類するもの含む)		その他		合計	
		地方公共団体		学校							
件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積
13	18.08	3	0.48	1	0.04	2	0.11	0	0	19	18.71

平成 18 年 3 月時点

一方、延岡市街部の区間は、河川敷も広く、グラウンド、ゴルフ場等が整備され、住民の散策の場、憩いの場となっています。

五ヶ瀬川の河川敷総面積は 106.50ha であり、このうち、18.71ha が公園・緑地等として利用されています。利用形態としては日常的なスポーツ・レクリエーション等が主体となり、花火大会などのイベントの場としても利用されています。

また、延岡市は、まちづくりの一環として「アスリートタウン構想」を掲げており、国際大会開催が可能な運動公園の建設や、河川堤防等を利用したジョギングコースの整備構想が進められており、この構想を支援するため、遊歩道や休憩施設、親水性のある環境護岸等の整備を行っています。

表 2-2-5 五ヶ瀬川河川敷利用状況 単位：件数（カ所）、面積（ha）

土地の占用											
公園・緑地		運動場				ゴルフ場 (類するもの含む)		その他		合計	
		地方公共団体		学校							
件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積
13	18.08	3	0.48	1	0.04	2	0.11	0	0	19	18.71

平成 18 年 3 月時点

五ヶ瀬川水系河川整備計画（原案）と五ヶ瀬川水系河川整備計画（案）との対比表

意見	対応
<p>2行目のところは、希少種のみで普通の魚が記載されていないので「水域には、コイ、フナ、オイカワなどの淡水魚のほか、カワアナゴ、カマキリなどの回遊魚が生息しています。」と記載してはどうか。</p>	
<p>下から5行目のところは「河原ではツルヨシ、ジャヤナギ、エノキ」とあるが、最近の調査でオオタチヤナギが多いことがわかった。また「古来水防林として植林されてきた竹林等が生息しています」とあるが、前段ではツルヨシ等の固有名詞が記載されている為、「竹林」という表現は「竹類」に又、「生息」という表現も「生育」と修正し、「河原ではツルヨシ、オオタチヤナギ、オギ等の植物群落や、ムクノキ、エノキなどの河畔林や、古来水防林として植林されてきた竹類等が生息しています。」と記載してはどうか。</p>	<p>多様な自然環境を表現するため、計画案 P30 を「水域には、コイ、フナ、オイカワなどの淡水魚のほか、カワアナゴ、カマキリなどの回遊魚が生息しています。」と見直しました。</p>

頁	五ヶ瀬川水系河川整備計画（原案）	五ヶ瀬川水系河川整備計画（案）
<p>P29</p>	<p>2.2.3 河川環境</p> <p>(1) 河川環境の現状と課題</p> <p>五ヶ瀬川は、豊かな水量に恵まれて、大きな瀬や淵を有するなど自然河川の様相を呈しており、水域には、カワアナゴ、カマキリなどの魚類が生息しています。</p> <p>また、河口から 9k000 付近で分派する水量豊かな大瀬川には百間、三須、安賀多といったアユの産卵場があり、水域には、カワアナゴ、カマキリなどの重要な魚類が生息し、三須付近の広大な中州や河川敷は、カヤネズミが生息するオギが広がっています。水辺には抽水植物群落等が、河口付近には塩沼地等が分布し、それぞれに応じた動物、植物が生息・生育しています。また、五ヶ瀬川左岸側の可愛岳、行隣山、桧山一帯はまとまった森林地域であり、小型～大型の哺乳類、猛禽類等の鳥類、ムカシトンボ等の昆虫類が生息しています。大瀬川の全川と五ヶ瀬川の一部は水産資源保護法の保護水面に指定されています。</p> <p>また、岩熊井堰では、3 基の魚道が設置されているものの、アユの遡上に影響もみられます。</p> <p>河口部は、河口閉塞が発生しており、特に大瀬川は冬季の閉塞が著しく、河口周辺にはアカウミガメの産卵が見られる砂浜が存在し、大瀬川の鷺島橋下流にはセッカ、オオヨシキリなどが生息するヨシ原が広がるとともに、サギ類が営巣する河畔林など多様な環境となっています。</p> <p>最大支川である北川には、湧水に支えられた湿地やワンドが点在し、オグラコウホネなど 70 種以上もの重要な種が生育・生息しています。一部の区間では河畔林が発達し、瀬はアユの産卵場となり、山付区間ではカワセミ、ヤマセミ等が生息し、河原ではツルヨシ、ジャヤナギ、エノキ等の植物群落や、古来水防林として植林されてきた竹林等が生育しています。汽水域にはコアマモ群落が形成されており、アカメなどの稚魚の生息の場となっており、カワスナガニも広く分布し、塩沼地に依存するシバナ、ハマボウ等が生育するなど、動植物の生息・生育場として重要な空間となっています。</p>	<p>2.2.3 河川環境</p> <p>(1) 河川環境の現状と課題</p> <p>五ヶ瀬川と大瀬川における安賀多橋付近より上流の区間は、豊かな水量とともに、瀬や淵が連続する“自然河川”の様相を呈しています。水域には、コイ、フナ、オイカワなどの淡水魚のほか、アユ、カワアナゴ、カマキリなどの回遊魚が生息しています。特に大瀬川には百間の瀬、三須の瀬、安賀多の瀬といった、アユの産卵場が存在し、大瀬川全川と五ヶ瀬川の一部は水産資源保護法の保護水面に指定されています。一方、岩熊井堰には、現在 3 基の魚道が設置されているものの、アユの遡上等への影響も見られます。陸域には、オギ群落が分布し、三須付近の中州には、カヤネズミ等が生息しています。</p> <p>安賀多橋付近から河口までの汽水域<sup>注)</sup>の区間には塩沼地が随所に見られ、塩沼地特有のシバナ等の植物が自生しています。河川敷に広がるヨシ原にはセッカ、オオヨシキリ等の鳥類をはじめ、カヤネズミやタヌキなどの哺乳類、ムカシトンボなどの昆虫類が生息し、オオタチヤナギ等の河畔林にはサギ等が営巣しています。</p> <p>河口周辺には砂丘が広がり、アカウミガメの産卵場となっています。</p> <p>最大支川である北川には、塩沼地に依存するシバナやハマボウが生育しています。特に北川の派川である友内川は「日本の重要湿地 500 選」に選定され、水域に繁茂するコアマモ群落は、アカメなどの稚魚の重要な生息場となっています。</p> <p>注) 汽水域：淡水と海水がまじり合う水域。</p>

五ヶ瀬川水系河川整備計画（原案）と五ヶ瀬川水系河川整備計画（案）との対比表

意見	対応
<p>ハマボウの説明は、「塩水の影響を受けそうな」ではなく「塩水の影響を受ける」と修正し、「低木」を「アオイ科の低木」と修正してはどうか。また、塩浜町に大群落があるため「塩水の影響を受ける河口の河岸や州に見られるアオイ科の低木。初夏に黄色い大型の花をつける。延岡市方財町・塩浜町に群落がある。」と記載してはどうか。</p>	<p>五ヶ瀬川でのハマボウの生息環境や分布状況をふまえ計画案 P31 のハマボウの説明を「塩水の影響を受ける河口の河岸や州に見られるアオイ科の低木。初夏に黄色い大型の花をつける。延岡市方財町・塩浜町に群落がある。」と修正しました。</p>
<p>アカメの説明は、「大量に確認」の「大量」を除き、「河口の葦の中で隠れていることが多い」は「河口のコアマコ群落の中で生活する」と修正し、『稚魚～成魚までが確認されているのは宮崎県と高知県。体長は1mを超す場合もある。主に沿岸域に生息するが、幼魚期には河口のコアマコ群落の中で生活する。また、河口には夏の時期に多く現れる。宮崎では50cm以上のアカメを「マルカ」と呼ぶ』と記載してはどうか。</p>	<p>確認状況やアカメの生態をふまえ計画案 P31 のアカメの説明を「稚魚～成魚までが確認されているのは宮崎県と高知県。体長は1mを超す場合もある。主に沿岸域に生息するが、幼魚期には河口のコアマコ群落の中で生活する。また、河口には夏の時期に多く現れる。宮崎では50cm以上のアカメを「マルカ」と呼ぶ」と修正しました</p>
<p>アユの説明は、五ヶ瀬川の特徴を入れて「春から秋にかけて、若魚期を主として中流域で生活する。五ヶ瀬川では産卵のために下流域に下るアユをやなで、産卵場では瀬がけで漁獲する。卵から孵化した仔魚は秋に海に下り、翌春まで仔稚魚期を海で過ごす」と記載してはどうか。</p>	<p>五ヶ瀬川でのアユの生態をふまえ、計画案 P31 のアユの説明を「春から秋にかけて、若魚期を主として中流域で生活する。五ヶ瀬川では産卵のために下流域に下るアユをやなで、産卵場では瀬がけで漁獲する。卵から孵化した仔魚は秋に海に下り、翌春まで仔稚魚期を海で過ごす」と修正しました。</p>

頁	五ヶ瀬川水系河川整備計画（原案）	五ヶ瀬川水系河川整備計画（案）
P30	<div data-bbox="379 625 804 892"> </div> <div data-bbox="400 903 831 997"> <p>写真 2-2-8 ハマボウ (宮崎県: 準絶滅危惧) 塩水の影響を受けそうな、河口の河岸や州に見られる低木。日本の野生ハイビスカス、黄色い大型の花をつける。延岡市方財町に群落がある。</p> </div> <div data-bbox="834 625 1258 892"> </div> <div data-bbox="854 903 1285 1018"> <p>写真 2-2-9 カヤネズミ 晩春から初冬にかけては草地、河川敷、堤防などでスキヤチガヤなどイネ科植物が優先する水気の有るところに生息し茎上に球形の巣を作り、子育てをする。冬は地表の堆積物や地下に掘った坑道で過ごす。</p> </div> <div data-bbox="379 1066 804 1333"> </div> <div data-bbox="400 1344 831 1512"> <p>写真 2-2-10 チュウサギ (準絶滅危惧) 夏鳥であるが留鳥として年間を通じて見られる個体もいる。コサギ (60cm) より一回り大きく、ダイサギよりは小さい。また、食性も違ってダイサギやコサギは、池や河川で魚を主食としていることに対してチュウサギは、カエルや昆虫を主食とし、水田や農耕地にすることが多い。五ヶ瀬川及び北川下流域で確認されている。</p> </div> <div data-bbox="834 1066 1258 1333"> </div> <div data-bbox="854 1344 1285 1491"> <p>写真 2-2-11 アカメ (準絶滅危惧) 稚魚～成魚までが大量に確認されているのは宮崎県と高知県。体長は1mを超す場合もある。主に沿岸域に生息するが、幼魚期には河口の葦の中などで隠れていることが多い。また、河口には夏の時期に多く現れる。宮崎では50cm以上のアカメを「マルカ」と呼ぶ。</p> </div> <div data-bbox="379 1543 804 1795"> </div> <div data-bbox="400 1806 831 1953"> <p>写真 2-2-12 ムカシトンボ (宮崎県: 準絶滅危惧) 生きた化石といわれ、世界的に有名な日本特産種のトンボ。腹長は36～40mm。成熟成虫は、おもに山地渓流で見られるが、環境変化に敏感で、砂防工事などにより土砂が流れ込んだりすると見られなくなる。成虫は4月下旬頃より羽化し、5月上旬～中旬を中心に産卵期を迎える。山間部ではこれより遅れる。</p> </div> <div data-bbox="834 1543 1258 1795"> </div> <div data-bbox="854 1806 1285 1932"> <p>写真 2-2-13 アユ 北海道西部以南の日本各地に分布する。春から秋にかけて、若魚期を主として中流域で生活するが、孵化した仔魚は秋に海に下り、翌春まで仔稚魚期を海で送る (両側回遊型)。週上りは、南方では3～5月、北方では5～7月ごろ。</p> </div>	<div data-bbox="1685 625 2110 892"> </div> <div data-bbox="1685 892 2110 976"> <p>写真 2-2-10 ハマボウ (宮崎県: 準絶滅危惧) 塩水の影響を受ける河口の河岸や州に見られるアオイ科の低木。初夏に黄色い大型の花をつける。延岡市方財町・塩浜町に群落がある。</p> </div> <div data-bbox="2113 625 2537 892"> </div> <div data-bbox="2113 892 2537 1008"> <p>写真 2-2-11 カヤネズミ 晩春から初冬にかけては草地、河川敷、堤防などでスキヤチガヤなどイネ科植物が優先する水気の有るところに生息し茎上に球形の巣を作り、子育てをする。冬は地表の堆積物や地下に掘った坑道で過ごす。</p> </div> <div data-bbox="1685 1039 2110 1306"> </div> <div data-bbox="1685 1306 2110 1470"> <p>写真 2-2-12 チュウサギ (準絶滅危惧) 夏鳥であるが留鳥として年間を通じて見られる個体もいる。コサギ (60cm) より一回り大きく、ダイサギよりは小さい。また、食性も違ってダイサギやコサギは、池や河川で魚を主食としていることに対してチュウサギは、カエルや昆虫を主食とし、水田や農耕地にすることが多い。五ヶ瀬川及び北川下流域で確認されている。</p> </div> <div data-bbox="2113 1039 2537 1306"> </div> <div data-bbox="2113 1306 2537 1417"> <p>写真 2-2-13 アカメ (準絶滅危惧) 稚魚～成魚までが確認されているのは宮崎県と高知県。体長は1mを超す場合もある。主に沿岸域に生息するが、幼魚期には河口のコアマコ群落の中で生活する。また、河口には夏の時期に多く現れる。宮崎では50cm以上のアカメを「マルカ」と呼ぶ。</p> </div> <div data-bbox="1685 1533 2110 1785"> </div> <div data-bbox="1685 1785 2110 1932"> <p>写真 2-2-14 ムカシトンボ (宮崎県: 準絶滅危惧) 生きた化石といわれ、世界的に有名な日本特産種のトンボ。腹長は36～40mm。成熟成虫は、おもに山地渓流で見られるが、環境変化に敏感で、砂防工事などにより土砂が流れ込んだりすると見られなくなる。成虫は4月下旬頃より羽化し、5月上旬～中旬を中心に産卵期を迎える。山間部ではこれより遅れる。</p> </div> <div data-bbox="2113 1533 2537 1785"> </div> <div data-bbox="2113 1785 2537 1953"> <p>写真 2-2-15 アユ 北海道西部以南の日本各地に分布する。春から秋にかけて、若魚期を主として中流域で生活する。五ヶ瀬川では産卵のために下流域に下るアユをやなで、産卵場では瀬がけで漁獲する。卵から孵化した仔魚は秋に海に下り、翌春まで仔稚魚期を海で過ごす (両側回遊型)。週上りは、五ヶ瀬川では3～5月ごろに週上する。</p> </div>



五ヶ瀬川水系河川整備計画（原案）と五ヶ瀬川水系河川整備計画（案）との対比表

意見	対応
希少種の事しか記載されていないため、普通種が何種見つまっているのかを追加すると箔がつくと思われる。	単純記載ミスの修正、その他学識者等の意見をふまえ、計画案 P32. 33 の特定種一覧表を修正しました。
底生動物をもう少し分類分けした方がよい。	
ノテンツキは誤った認定ではないかという専門家の意見が載っていたので、省いた方がよい。	
カヤネズミの「不能」というのがよくわからない。環境省ランク付けはまだしてないと思う。	

頁	五ヶ瀬川水系河川整備計画（原案）	五ヶ瀬川水系河川整備計画（案）																																																																																																																																																																																																																													
P31	<p>表 2-2-7 五ヶ瀬川水系で確認された主な特定種</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>分類</th> <th>希少種</th> <th>分類</th> <th>希少種</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="15">鳥類</td> <td>カンムリカイツブリ (環境省:地域個体群/危急種)</td> <td rowspan="15">植物</td> <td>マツバラ (環境省:絶滅危惧Ⅱ類, 宮崎県:絶滅危惧Ⅱ類)</td> </tr> <tr> <td>カワウ (水産庁:普通)</td> <td>ヌカボタテ (環境省:絶滅危惧Ⅱ類, 宮崎県:絶滅危惧ⅠB類)</td> </tr> <tr> <td>ヨシゴイ (宮崎県:準絶滅危惧)</td> <td>ミチヤナギ (宮崎県:準絶滅危惧)</td> </tr> <tr> <td>チュウサギ (環境省:希少種/準絶滅危惧, 水産省:希少種)</td> <td>ノダイオウ (環境省:絶滅危惧Ⅱ類)</td> </tr> <tr> <td>ツクシガモ (環境省:地域個体群/絶滅危惧ⅠB類, 宮崎県:絶滅危惧ⅠB類)</td> <td>コギシギ (環境省:絶滅危惧Ⅱ類, 宮崎県:準絶滅危惧)</td> </tr> <tr> <td>オンドリ (環境省:希少種)</td> <td>タガラシ (宮崎県:準絶滅危惧)</td> </tr> <tr> <td>トモエガモ (環境省:絶滅危惧Ⅱ類, 宮崎県:絶滅危惧ⅠB類)</td> <td>ウマノズクサ (宮崎県:準絶滅危惧)</td> </tr> <tr> <td>ミサゴ (環境省:危急種/準絶滅危惧, 宮崎県:準絶滅危惧)</td> <td>ナガミノツルキケマン (環境省:準絶滅危惧)</td> </tr> <tr> <td>ハチクマ (環境省:希少種/準絶滅危惧, 宮崎県:絶滅危惧Ⅱ類)</td> <td>コイスガラシ (環境省:準絶滅危惧, 宮崎県:準絶滅危惧)</td> </tr> <tr> <td>オオタカ (環境省:絶滅危惧Ⅱ類, 宮崎県:準絶滅危惧)</td> <td>ズイナ (宮崎県:絶滅危惧Ⅱ類)</td> </tr> <tr> <td>ハイタカ (環境省:希少種/準絶滅危惧, 宮崎県:準絶滅危惧)</td> <td>タコノアシ (環境省:絶滅危惧Ⅱ類, 宮崎県:絶滅危惧Ⅱ類, 延岡市:希少性)</td> </tr> <tr> <td>サンバ (宮崎県:準絶滅危惧)</td> <td>ハマナツメ (環境省:絶滅危惧ⅠB類, 宮崎県:絶滅危惧Ⅱ類, 延岡市:希少性)</td> </tr> <tr> <td>ハイイロチュウヒ (宮崎県:絶滅危惧Ⅱ類)</td> <td>ハマボウ (宮崎県:準絶滅危惧, 延岡市:希少性)</td> </tr> <tr> <td>チュウヒ (環境省:危急種/絶滅危惧Ⅱ類, 宮崎県:絶滅危惧Ⅱ類)</td> <td>ヒメミノハギ (宮崎県:準絶滅危惧)</td> </tr> <tr> <td>ハヤブサ (環境省:危急種/絶滅危惧Ⅱ類, 宮崎県:準絶滅危惧)</td> <td>ミズマツバ (環境省:絶滅危惧Ⅱ類)</td> </tr> <tr> <td>ヒクイナ (宮崎県:準絶滅危惧)</td> <td>フサモ (宮崎県:絶滅危惧ⅠB類)</td> </tr> <tr> <td>タマシギ (宮崎県:準絶滅危惧)</td> <td>センブリ (宮崎県:準絶滅危惧)</td> </tr> <tr> <td>アカアシシギ (環境省:絶滅危惧Ⅱ類)</td> <td>ガガイモ (宮崎県:絶滅危惧Ⅱ類)</td> </tr> <tr> <td>ホウロクシギ (環境省:絶滅危惧Ⅱ類, 宮崎県:準絶滅危惧)</td> <td>シロネ (宮崎県:絶滅危惧ⅠB類)</td> </tr> <tr> <td>チュウシャクシギ (環境省:種の保存法)</td> <td>ナツノタムラソウ (宮崎県:判別不能)</td> </tr> <tr> <td>コンシャクシギ (環境省:危急種/絶滅危惧ⅠA類, 宮崎県:絶滅危惧Ⅱ類)</td> <td>ミゾコウジュ (環境省:準絶滅危惧)</td> </tr> <tr> <td>セイトカシギ (環境省:希少種/絶滅危惧ⅠB類, 水産省:希少種)</td> <td>ヒメナキミ (宮崎県:絶滅危惧Ⅱ類)</td> </tr> <tr> <td>コアシサシ (環境省:種の保存法/希少種/絶滅危惧Ⅱ類, 宮崎県:準絶滅危惧)</td> <td>オオヒナノウスツボ (宮崎県:絶滅危惧Ⅱ類)</td> </tr> <tr> <td>アオバズク (宮崎県:準絶滅危惧)</td> <td>カワヂシャ (環境省:準絶滅危惧)</td> </tr> <tr> <td>サンショウクイ (環境省:絶滅危惧Ⅱ類)</td> <td>ウラギク (環境省:絶滅危惧Ⅱ類, 宮崎県:絶滅危惧ⅠA類)</td> </tr> <tr> <td rowspan="15">底生動物類</td> <td>イシマキガイ (水産省:減少種)</td> <td>セキシウモセンブリ (宮崎県:準絶滅危惧)</td> </tr> <tr> <td>カノコガイ (財)世界自然保護基金日本委員会:希少</td> <td>シバナ (環境省:絶滅危惧Ⅱ類, 宮崎県:絶滅危惧Ⅱ類)</td> </tr> <tr> <td>ヒロクチカノコガイ (水産省:希少, 宮崎県:絶滅危惧ⅠB類)</td> <td>イトモ (環境省:絶滅危惧Ⅱ類, 宮崎県:絶滅危惧ⅠB類)</td> </tr> <tr> <td>ナラビオカミミガイ (宮崎県:絶滅危惧ⅠA類, (財)世界自然保護基金日本委員会:希少)</td> <td>イトクズモ (環境省:絶滅危惧Ⅱ類)</td> </tr> <tr> <td>オカミミガイ (水産省:危険種, (財)世界自然保護基金日本委員会:希少)</td> <td>コアマモ (環境省:情報不足, 宮崎県:絶滅危惧Ⅱ類)</td> </tr> <tr> <td>モノアラガイ (環境省:準絶滅危惧)</td> <td>ハナビゼキシウ (宮崎県:絶滅危惧ⅠA類)</td> </tr> <tr> <td>ミナミテナガエビ (水産省:減少種)</td> <td>ヒメコウガイゼキサウ (宮崎県:絶滅危惧Ⅱ類)</td> </tr> <tr> <td>モズクガニ (水産省:減少傾向, (財)世界自然保護基金日本委員会:希少)</td> <td>サイコクスカボ (宮崎県:絶滅危惧ⅠA類)</td> </tr> <tr> <td>クシテガニ (宮崎県:準絶滅危惧, (財)世界自然保護基金日本委員会:希少)</td> <td>シオク (延岡市:希少性)</td> </tr> <tr> <td>カワスナガニ (環境省:/絶滅危惧ⅠB類/情報不足, 宮崎県:情報不足)</td> <td>ウシク (宮崎県:絶滅危惧Ⅱ類)</td> </tr> <tr> <td>ヒメヤマトオサガニ (宮崎県:準絶滅危惧, (財)世界自然保護基金日本委員会:普通)</td> <td>ミクリガヤ (環境省:絶滅危惧ⅠB類, 宮崎県:絶滅危惧ⅠA類)</td> </tr> <tr> <td>シオマネキ (環境省:準絶滅危惧, 水産省:希少, 宮崎県:準絶滅危惧, (財)世界自然保護基金日本委員会:希少)</td> <td>ノテンツキ (宮崎県:絶滅危惧ⅠB類)</td> </tr> <tr> <td>ハクセンシオマネキ (環境省:準絶滅危惧, 宮崎県:準絶滅危惧, (財)世界自然保護基金日本委員会:希少)</td> <td>ナガボテンツキ (宮崎県:絶滅危惧ⅠA類)</td> </tr> <tr> <td>ノコギリガザミ (宮崎県:準絶滅危惧)</td> <td>イセウキヤガラ (宮崎県:準絶滅危惧)</td> </tr> <tr> <td>ムカシトンボ (宮崎県:準絶滅危惧)</td> <td>マツカサススキ (宮崎県:絶滅危惧ⅠB類)</td> </tr> <tr> <td>クロサナエ (宮崎県:準絶滅危惧)</td> <td>コウキヤガラ (宮崎県:絶滅危惧ⅠB類)</td> </tr> <tr> <td>アオサナエ (宮崎県:準絶滅危惧)</td> <td>ウキヤガ (宮崎県:絶滅危惧ⅠA類)</td> </tr> <tr> <td>オナガサナエ (宮崎県:準絶滅危惧)</td> <td>クサガメ (宮崎県:絶滅危惧Ⅱ類)</td> </tr> <tr> <td>キイロヤマトンボ (環境省:絶滅危惧Ⅱ類, 宮崎県:絶滅危惧Ⅱ類, 漁業協同組合:漁業権対象種)</td> <td>イシガメ (宮崎県:絶滅危惧Ⅱ類)</td> </tr> <tr> <td>コガタノゲゴロウ (漁業協同組合:漁業権対象種)</td> <td>スッポン (宮崎県:情報不足)</td> </tr> <tr> <td>キベリマメゲンゴロウ (宮崎県:準絶滅危惧)</td> <td>ジネズミ (宮崎県:情報不足)</td> </tr> <tr> <td>ツマキレオナガミズズミ (宮崎県:準絶滅危惧)</td> <td>ムササビ (宮崎県:準絶滅危惧)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>カヤネズミ (レッドデータ日本の哺乳類, 日本哺乳類学:不能イタチ・イタチ属の一種 (宮崎県:準絶滅危惧))</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ニホンヒキガエル (宮崎県:準絶滅危惧)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>トノサマガエル (宮崎県:準絶滅危惧)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>オオサンショウウオ (環境省:準絶滅危惧)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ベッコウサンショウウオ (環境省:準絶滅危惧)</td> </tr> </tbody> </table>	分類	希少種	分類	希少種	鳥類	カンムリカイツブリ (環境省:地域個体群/危急種)	植物	マツバラ (環境省:絶滅危惧Ⅱ類, 宮崎県:絶滅危惧Ⅱ類)	カワウ (水産庁:普通)	ヌカボタテ (環境省:絶滅危惧Ⅱ類, 宮崎県:絶滅危惧ⅠB類)	ヨシゴイ (宮崎県:準絶滅危惧)	ミチヤナギ (宮崎県:準絶滅危惧)	チュウサギ (環境省:希少種/準絶滅危惧, 水産省:希少種)	ノダイオウ (環境省:絶滅危惧Ⅱ類)	ツクシガモ (環境省:地域個体群/絶滅危惧ⅠB類, 宮崎県:絶滅危惧ⅠB類)	コギシギ (環境省:絶滅危惧Ⅱ類, 宮崎県:準絶滅危惧)	オンドリ (環境省:希少種)	タガラシ (宮崎県:準絶滅危惧)	トモエガモ (環境省:絶滅危惧Ⅱ類, 宮崎県:絶滅危惧ⅠB類)	ウマノズクサ (宮崎県:準絶滅危惧)	ミサゴ (環境省:危急種/準絶滅危惧, 宮崎県:準絶滅危惧)	ナガミノツルキケマン (環境省:準絶滅危惧)	ハチクマ (環境省:希少種/準絶滅危惧, 宮崎県:絶滅危惧Ⅱ類)	コイスガラシ (環境省:準絶滅危惧, 宮崎県:準絶滅危惧)	オオタカ (環境省:絶滅危惧Ⅱ類, 宮崎県:準絶滅危惧)	ズイナ (宮崎県:絶滅危惧Ⅱ類)	ハイタカ (環境省:希少種/準絶滅危惧, 宮崎県:準絶滅危惧)	タコノアシ (環境省:絶滅危惧Ⅱ類, 宮崎県:絶滅危惧Ⅱ類, 延岡市:希少性)	サンバ (宮崎県:準絶滅危惧)	ハマナツメ (環境省:絶滅危惧ⅠB類, 宮崎県:絶滅危惧Ⅱ類, 延岡市:希少性)	ハイイロチュウヒ (宮崎県:絶滅危惧Ⅱ類)	ハマボウ (宮崎県:準絶滅危惧, 延岡市:希少性)	チュウヒ (環境省:危急種/絶滅危惧Ⅱ類, 宮崎県:絶滅危惧Ⅱ類)	ヒメミノハギ (宮崎県:準絶滅危惧)	ハヤブサ (環境省:危急種/絶滅危惧Ⅱ類, 宮崎県:準絶滅危惧)	ミズマツバ (環境省:絶滅危惧Ⅱ類)	ヒクイナ (宮崎県:準絶滅危惧)	フサモ (宮崎県:絶滅危惧ⅠB類)	タマシギ (宮崎県:準絶滅危惧)	センブリ (宮崎県:準絶滅危惧)	アカアシシギ (環境省:絶滅危惧Ⅱ類)	ガガイモ (宮崎県:絶滅危惧Ⅱ類)	ホウロクシギ (環境省:絶滅危惧Ⅱ類, 宮崎県:準絶滅危惧)	シロネ (宮崎県:絶滅危惧ⅠB類)	チュウシャクシギ (環境省:種の保存法)	ナツノタムラソウ (宮崎県:判別不能)	コンシャクシギ (環境省:危急種/絶滅危惧ⅠA類, 宮崎県:絶滅危惧Ⅱ類)	ミゾコウジュ (環境省:準絶滅危惧)	セイトカシギ (環境省:希少種/絶滅危惧ⅠB類, 水産省:希少種)	ヒメナキミ (宮崎県:絶滅危惧Ⅱ類)	コアシサシ (環境省:種の保存法/希少種/絶滅危惧Ⅱ類, 宮崎県:準絶滅危惧)	オオヒナノウスツボ (宮崎県:絶滅危惧Ⅱ類)	アオバズク (宮崎県:準絶滅危惧)	カワヂシャ (環境省:準絶滅危惧)	サンショウクイ (環境省:絶滅危惧Ⅱ類)	ウラギク (環境省:絶滅危惧Ⅱ類, 宮崎県:絶滅危惧ⅠA類)	底生動物類	イシマキガイ (水産省:減少種)	セキシウモセンブリ (宮崎県:準絶滅危惧)	カノコガイ (財)世界自然保護基金日本委員会:希少	シバナ (環境省:絶滅危惧Ⅱ類, 宮崎県:絶滅危惧Ⅱ類)	ヒロクチカノコガイ (水産省:希少, 宮崎県:絶滅危惧ⅠB類)	イトモ (環境省:絶滅危惧Ⅱ類, 宮崎県:絶滅危惧ⅠB類)	ナラビオカミミガイ (宮崎県:絶滅危惧ⅠA類, (財)世界自然保護基金日本委員会:希少)	イトクズモ (環境省:絶滅危惧Ⅱ類)	オカミミガイ (水産省:危険種, (財)世界自然保護基金日本委員会:希少)	コアマモ (環境省:情報不足, 宮崎県:絶滅危惧Ⅱ類)	モノアラガイ (環境省:準絶滅危惧)	ハナビゼキシウ (宮崎県:絶滅危惧ⅠA類)	ミナミテナガエビ (水産省:減少種)	ヒメコウガイゼキサウ (宮崎県:絶滅危惧Ⅱ類)	モズクガニ (水産省:減少傾向, (財)世界自然保護基金日本委員会:希少)	サイコクスカボ (宮崎県:絶滅危惧ⅠA類)	クシテガニ (宮崎県:準絶滅危惧, (財)世界自然保護基金日本委員会:希少)	シオク (延岡市:希少性)	カワスナガニ (環境省:/絶滅危惧ⅠB類/情報不足, 宮崎県:情報不足)	ウシク (宮崎県:絶滅危惧Ⅱ類)	ヒメヤマトオサガニ (宮崎県:準絶滅危惧, (財)世界自然保護基金日本委員会:普通)	ミクリガヤ (環境省:絶滅危惧ⅠB類, 宮崎県:絶滅危惧ⅠA類)	シオマネキ (環境省:準絶滅危惧, 水産省:希少, 宮崎県:準絶滅危惧, (財)世界自然保護基金日本委員会:希少)	ノテンツキ (宮崎県:絶滅危惧ⅠB類)	ハクセンシオマネキ (環境省:準絶滅危惧, 宮崎県:準絶滅危惧, (財)世界自然保護基金日本委員会:希少)	ナガボテンツキ (宮崎県:絶滅危惧ⅠA類)	ノコギリガザミ (宮崎県:準絶滅危惧)	イセウキヤガラ (宮崎県:準絶滅危惧)	ムカシトンボ (宮崎県:準絶滅危惧)	マツカサススキ (宮崎県:絶滅危惧ⅠB類)	クロサナエ (宮崎県:準絶滅危惧)	コウキヤガラ (宮崎県:絶滅危惧ⅠB類)	アオサナエ (宮崎県:準絶滅危惧)	ウキヤガ (宮崎県:絶滅危惧ⅠA類)	オナガサナエ (宮崎県:準絶滅危惧)	クサガメ (宮崎県:絶滅危惧Ⅱ類)	キイロヤマトンボ (環境省:絶滅危惧Ⅱ類, 宮崎県:絶滅危惧Ⅱ類, 漁業協同組合:漁業権対象種)	イシガメ (宮崎県:絶滅危惧Ⅱ類)	コガタノゲゴロウ (漁業協同組合:漁業権対象種)	スッポン (宮崎県:情報不足)	キベリマメゲンゴロウ (宮崎県:準絶滅危惧)	ジネズミ (宮崎県:情報不足)	ツマキレオナガミズズミ (宮崎県:準絶滅危惧)	ムササビ (宮崎県:準絶滅危惧)		カヤネズミ (レッドデータ日本の哺乳類, 日本哺乳類学:不能イタチ・イタチ属の一種 (宮崎県:準絶滅危惧))		ニホンヒキガエル (宮崎県:準絶滅危惧)		トノサマガエル (宮崎県:準絶滅危惧)		オオサンショウウオ (環境省:準絶滅危惧)		ベッコウサンショウウオ (環境省:準絶滅危惧)	<p>表 2-2-7 五ヶ瀬川水系で確認された主な特定種</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>分類</th> <th>希少種</th> <th>分類</th> <th>希少種</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="15">鳥類</td> <td>アカアシシギ (環境省:絶滅危惧Ⅱ類)</td> <td rowspan="15">植物</td> <td>イセウキヤガラ (宮崎県:準絶滅危惧)</td> </tr> <tr> <td>カンムリカイツブリ (環境省:地域個体群)</td> <td>イトクズモ (環境省:絶滅危惧Ⅱ類)</td> </tr> <tr> <td>クロサギ (宮崎県:準絶滅危惧)</td> <td>ウマノズクサ (宮崎県:準絶滅危惧)</td> </tr> <tr> <td>サンバ (宮崎県:準絶滅危惧)</td> <td>ウラギク (環境省:絶滅危惧Ⅱ類/宮崎県:絶滅危惧ⅠA類)</td> </tr> <tr> <td>サンショウクイ (環境省:絶滅危惧Ⅱ類)</td> <td>ガガイモ (宮崎県:絶滅危惧Ⅱ類)</td> </tr> <tr> <td>セイトカシギ (環境省:絶滅危惧ⅠB類)</td> <td>カワヂシャ (環境省:準絶滅危惧)</td> </tr> <tr> <td>チュウサギ (環境省:準絶滅危惧)</td> <td>コアマモ (環境省:情報不足/宮崎県:準絶滅危惧)</td> </tr> <tr> <td>カワウ (緑の国勢調査報告書:自然)</td> <td>コイスガラシ (環境省:準絶滅危惧/宮崎県:準絶滅危惧)</td> </tr> <tr> <td>ヨシゴイ (宮崎県:準絶滅危惧)</td> <td>ゴマクサ (環境省:絶滅危惧ⅠB類/宮崎県:準絶滅危惧)</td> </tr> <tr> <td>トモエガモ (環境省:絶滅危惧Ⅱ類/宮崎県:絶滅危惧ⅠB類)</td> <td>シバナ (環境省:絶滅危惧Ⅱ類/宮崎県:絶滅危惧Ⅱ類)</td> </tr> <tr> <td>タイナ (宮崎県:準絶滅危惧)</td> <td>セキシウモ (宮崎県:準絶滅危惧)</td> </tr> <tr> <td>オオアシシギ (緑の国勢調査報告書:自然/環境省:準絶滅危惧/宮崎県:絶滅危惧Ⅱ類)</td> <td>タガラシ (宮崎県:準絶滅危惧)</td> </tr> <tr> <td>アオバズク (宮崎県:準絶滅危惧)</td> <td>タコノアシ (環境省:絶滅危惧Ⅱ類/宮崎県:絶滅危惧Ⅱ類)</td> </tr> <tr> <td>フクロウ (宮崎県:絶滅危惧Ⅱ類)</td> <td>ツクシアブラガヤ (環境省:絶滅危惧ⅠB類)</td> </tr> <tr> <td>ツメナガセキレイ (緑の国勢調査報告書:希少)</td> <td>ハマボウ (宮崎県:準絶滅危惧)</td> </tr> <tr> <td>ノジコ (環境省:準絶滅危惧)</td> <td>ヒメナキミ (宮崎県:絶滅危惧Ⅱ類)</td> </tr> <tr> <td>オオタカ (緑の国勢調査報告書:保存/環境省:絶滅危惧Ⅱ類/宮崎県:準絶滅危惧)</td> <td>フサモ (宮崎県:絶滅危惧ⅠB類)</td> </tr> <tr> <td rowspan="15">魚類</td> <td>ヤマセミ (緑の国勢調査報告書:自然)</td> <td>ナガボテンツキ (宮崎県:絶滅危惧ⅠA類)</td> </tr> <tr> <td>カワセミ (緑の国勢調査報告書:自然)</td> <td>ナガミノツルキケマン (環境省:準絶滅危惧)</td> </tr> <tr> <td>チュウヒ (環境省:絶滅危惧Ⅱ類/宮崎県:絶滅危惧Ⅱ類)</td> <td>ノダイオウ (環境省:絶滅危惧Ⅱ類)</td> </tr> <tr> <td>ツクシガモ (環境省:絶滅危惧ⅠB類/宮崎県:絶滅危惧ⅠB類)</td> <td>ハマナツメ (環境省:絶滅危惧ⅠB類/宮崎県:絶滅危惧Ⅱ類)</td> </tr> <tr> <td>ハイイロチュウヒ (宮崎県:絶滅危惧Ⅱ類)</td> <td>ハマボウ (宮崎県:準絶滅危惧)</td> </tr> <tr> <td>ハイタカ (環境省:準絶滅危惧/宮崎県:準絶滅危惧)</td> <td>マツカサススキ (宮崎県:絶滅危惧ⅠB類)</td> </tr> <tr> <td>ハチクマ (環境省:準絶滅危惧/宮崎県:絶滅危惧Ⅱ類)</td> <td>マルバノサワトウガラシ (環境省:絶滅危惧ⅠB類/宮崎県:準絶滅危惧)</td> </tr> <tr> <td>ハヤブサ (種の保存に関する法律:重要/環境省:保存/絶滅危惧Ⅱ類/宮崎県:準絶滅危惧)</td> <td>ミズマツバ (環境省:絶滅危惧Ⅱ類)</td> </tr> <tr> <td>ヒクイナ (宮崎県:準絶滅危惧)</td> <td>ミゾコウジュ (環境省:準絶滅危惧)</td> </tr> <tr> <td>ホウロクシギ (環境省:絶滅危惧Ⅱ類/宮崎県:準絶滅危惧)</td> <td>ミチヤナギ (宮崎県:準絶滅危惧)</td> </tr> <tr> <td>ミサゴ (環境省:準絶滅危惧/宮崎県:準絶滅危惧)</td> <td>ククオンソウ (環境省:絶滅危惧ⅠB類/宮崎県:絶滅危惧Ⅱ類)</td> </tr> <tr> <td>オンドリ (環境省:希少種)</td> <td>コギシギ (環境省:絶滅危惧Ⅱ類/宮崎県:準絶滅危惧)</td> </tr> <tr> <td>クマタカ (環境省:絶滅危惧ⅠB類/宮崎県:絶滅危惧Ⅱ類)</td> <td>ズイナ (宮崎県:絶滅危惧Ⅱ類)</td> </tr> <tr> <td>タマシギ (宮崎県:準絶滅危惧)</td> <td>ヒメミノハギ (宮崎県:準絶滅危惧)</td> </tr> <tr> <td>コシャクシギ (環境省:絶滅危惧ⅠA類/宮崎県:絶滅危惧Ⅱ類)</td> <td>センブリ (宮崎県:準絶滅危惧)</td> </tr> <tr> <td>コアシサシ (環境省:絶滅危惧Ⅱ類/宮崎県:準絶滅危惧)</td> <td>シロネ (宮崎県:絶滅危惧ⅠB類)</td> </tr> <tr> <td>ホシガラス (宮崎県:絶滅危惧Ⅱ類)</td> <td>オオヒナノウスツボ (宮崎県:絶滅危惧Ⅱ類)</td> </tr> <tr> <td rowspan="15">両生類</td> <td>ドジョウ (宮崎県:準絶滅危惧)</td> <td>ハナビゼキシウ (宮崎県:絶滅危惧ⅠA類)</td> </tr> <tr> <td>ナマズ (宮崎県:準絶滅危惧)</td> <td>ヒメコウガイゼキサウ (宮崎県:絶滅危惧Ⅱ類)</td> </tr> <tr> <td>メダカ (環境省:絶滅危惧Ⅱ類/宮崎県:絶滅危惧Ⅱ類)</td> <td>ギンラン (宮崎県:絶滅危惧Ⅱ類)</td> </tr> <tr> <td>カマキリ (緑の国勢調査報告書:重要/宮崎県:準絶滅危惧)</td> <td>ジネズミ (宮崎県:情報不足)</td> </tr> <tr> <td>アカメ (環境省:準絶滅危惧/宮崎県:絶滅危惧Ⅱ類)</td> <td>ホンドモモンガ (宮崎県:準絶滅危惧)</td> </tr> <tr> <td>カワアナゴ (環境省:宮崎県:情報不足)</td> <td>ムササビ (宮崎県:準絶滅危惧)</td> </tr> <tr> <td>トビハゼ (宮崎県:絶滅危惧Ⅱ類)</td> <td>ヤマネ (環境省:準絶滅危惧/宮崎県:絶滅危惧Ⅱ類)</td> </tr> <tr> <td>チクゼンハゼ (環境省:絶滅危惧ⅠB類)</td> <td>ニホンイタチ (宮崎県:準絶滅危惧)</td> </tr> <tr> <td>クボハゼ (環境省:絶滅危惧ⅠB類)</td> <td>ニホンカモシカ (環境省:特別天然記念物/宮崎県:保護上重要な種)</td> </tr> <tr> <td>イドミズハゼ (環境省:情報不足)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>シロウオ (環境省:準絶滅危惧)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>タノゴモドキ (環境省:絶滅危惧ⅠB類)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>トノサマガエル (宮崎県:準絶滅危惧)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ニホンヒキガエル (宮崎県:準絶滅危惧)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ベッコウサンショウウオ (環境省:準絶滅危惧)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>オオサンショウウオ (宮崎県:準絶滅危惧)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>オオダイゴワラサンショウウオ (環境省:地域個体群/宮崎県:絶滅危惧ⅠB類)</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	分類	希少種	分類	希少種	鳥類	アカアシシギ (環境省:絶滅危惧Ⅱ類)	植物	イセウキヤガラ (宮崎県:準絶滅危惧)	カンムリカイツブリ (環境省:地域個体群)	イトクズモ (環境省:絶滅危惧Ⅱ類)	クロサギ (宮崎県:準絶滅危惧)	ウマノズクサ (宮崎県:準絶滅危惧)	サンバ (宮崎県:準絶滅危惧)	ウラギク (環境省:絶滅危惧Ⅱ類/宮崎県:絶滅危惧ⅠA類)	サンショウクイ (環境省:絶滅危惧Ⅱ類)	ガガイモ (宮崎県:絶滅危惧Ⅱ類)	セイトカシギ (環境省:絶滅危惧ⅠB類)	カワヂシャ (環境省:準絶滅危惧)	チュウサギ (環境省:準絶滅危惧)	コアマモ (環境省:情報不足/宮崎県:準絶滅危惧)	カワウ (緑の国勢調査報告書:自然)	コイスガラシ (環境省:準絶滅危惧/宮崎県:準絶滅危惧)	ヨシゴイ (宮崎県:準絶滅危惧)	ゴマクサ (環境省:絶滅危惧ⅠB類/宮崎県:準絶滅危惧)	トモエガモ (環境省:絶滅危惧Ⅱ類/宮崎県:絶滅危惧ⅠB類)	シバナ (環境省:絶滅危惧Ⅱ類/宮崎県:絶滅危惧Ⅱ類)	タイナ (宮崎県:準絶滅危惧)	セキシウモ (宮崎県:準絶滅危惧)	オオアシシギ (緑の国勢調査報告書:自然/環境省:準絶滅危惧/宮崎県:絶滅危惧Ⅱ類)	タガラシ (宮崎県:準絶滅危惧)	アオバズク (宮崎県:準絶滅危惧)	タコノアシ (環境省:絶滅危惧Ⅱ類/宮崎県:絶滅危惧Ⅱ類)	フクロウ (宮崎県:絶滅危惧Ⅱ類)	ツクシアブラガヤ (環境省:絶滅危惧ⅠB類)	ツメナガセキレイ (緑の国勢調査報告書:希少)	ハマボウ (宮崎県:準絶滅危惧)	ノジコ (環境省:準絶滅危惧)	ヒメナキミ (宮崎県:絶滅危惧Ⅱ類)	オオタカ (緑の国勢調査報告書:保存/環境省:絶滅危惧Ⅱ類/宮崎県:準絶滅危惧)	フサモ (宮崎県:絶滅危惧ⅠB類)	魚類	ヤマセミ (緑の国勢調査報告書:自然)	ナガボテンツキ (宮崎県:絶滅危惧ⅠA類)	カワセミ (緑の国勢調査報告書:自然)	ナガミノツルキケマン (環境省:準絶滅危惧)	チュウヒ (環境省:絶滅危惧Ⅱ類/宮崎県:絶滅危惧Ⅱ類)	ノダイオウ (環境省:絶滅危惧Ⅱ類)	ツクシガモ (環境省:絶滅危惧ⅠB類/宮崎県:絶滅危惧ⅠB類)	ハマナツメ (環境省:絶滅危惧ⅠB類/宮崎県:絶滅危惧Ⅱ類)	ハイイロチュウヒ (宮崎県:絶滅危惧Ⅱ類)	ハマボウ (宮崎県:準絶滅危惧)	ハイタカ (環境省:準絶滅危惧/宮崎県:準絶滅危惧)	マツカサススキ (宮崎県:絶滅危惧ⅠB類)	ハチクマ (環境省:準絶滅危惧/宮崎県:絶滅危惧Ⅱ類)	マルバノサワトウガラシ (環境省:絶滅危惧ⅠB類/宮崎県:準絶滅危惧)	ハヤブサ (種の保存に関する法律:重要/環境省:保存/絶滅危惧Ⅱ類/宮崎県:準絶滅危惧)	ミズマツバ (環境省:絶滅危惧Ⅱ類)	ヒクイナ (宮崎県:準絶滅危惧)	ミゾコウジュ (環境省:準絶滅危惧)	ホウロクシギ (環境省:絶滅危惧Ⅱ類/宮崎県:準絶滅危惧)	ミチヤナギ (宮崎県:準絶滅危惧)	ミサゴ (環境省:準絶滅危惧/宮崎県:準絶滅危惧)	ククオンソウ (環境省:絶滅危惧ⅠB類/宮崎県:絶滅危惧Ⅱ類)	オンドリ (環境省:希少種)	コギシギ (環境省:絶滅危惧Ⅱ類/宮崎県:準絶滅危惧)	クマタカ (環境省:絶滅危惧ⅠB類/宮崎県:絶滅危惧Ⅱ類)	ズイナ (宮崎県:絶滅危惧Ⅱ類)	タマシギ (宮崎県:準絶滅危惧)	ヒメミノハギ (宮崎県:準絶滅危惧)	コシャクシギ (環境省:絶滅危惧ⅠA類/宮崎県:絶滅危惧Ⅱ類)	センブリ (宮崎県:準絶滅危惧)	コアシサシ (環境省:絶滅危惧Ⅱ類/宮崎県:準絶滅危惧)	シロネ (宮崎県:絶滅危惧ⅠB類)	ホシガラス (宮崎県:絶滅危惧Ⅱ類)	オオヒナノウスツボ (宮崎県:絶滅危惧Ⅱ類)	両生類	ドジョウ (宮崎県:準絶滅危惧)	ハナビゼキシウ (宮崎県:絶滅危惧ⅠA類)	ナマズ (宮崎県:準絶滅危惧)	ヒメコウガイゼキサウ (宮崎県:絶滅危惧Ⅱ類)	メダカ (環境省:絶滅危惧Ⅱ類/宮崎県:絶滅危惧Ⅱ類)	ギンラン (宮崎県:絶滅危惧Ⅱ類)	カマキリ (緑の国勢調査報告書:重要/宮崎県:準絶滅危惧)	ジネズミ (宮崎県:情報不足)	アカメ (環境省:準絶滅危惧/宮崎県:絶滅危惧Ⅱ類)	ホンドモモンガ (宮崎県:準絶滅危惧)	カワアナゴ (環境省:宮崎県:情報不足)	ムササビ (宮崎県:準絶滅危惧)	トビハゼ (宮崎県:絶滅危惧Ⅱ類)	ヤマネ (環境省:準絶滅危惧/宮崎県:絶滅危惧Ⅱ類)	チクゼンハゼ (環境省:絶滅危惧ⅠB類)	ニホンイタチ (宮崎県:準絶滅危惧)	クボハゼ (環境省:絶滅危惧ⅠB類)	ニホンカモシカ (環境省:特別天然記念物/宮崎県:保護上重要な種)	イドミズハゼ (環境省:情報不足)		シロウオ (環境省:準絶滅危惧)		タノゴモドキ (環境省:絶滅危惧ⅠB類)		トノサマガエル (宮崎県:準絶滅危惧)		ニホンヒキガエル (宮崎県:準絶滅危惧)		ベッコウサンショウウオ (環境省:準絶滅危惧)		オオサンショウウオ (宮崎県:準絶滅危惧)		オオダイゴワラサンショウウオ (環境省:地域個体群/宮崎県:絶滅危惧ⅠB類)	
分類	希少種	分類	希少種																																																																																																																																																																																																																												
鳥類	カンムリカイツブリ (環境省:地域個体群/危急種)	植物	マツバラ (環境省:絶滅危惧Ⅱ類, 宮崎県:絶滅危惧Ⅱ類)																																																																																																																																																																																																																												
	カワウ (水産庁:普通)		ヌカボタテ (環境省:絶滅危惧Ⅱ類, 宮崎県:絶滅危惧ⅠB類)																																																																																																																																																																																																																												
	ヨシゴイ (宮崎県:準絶滅危惧)		ミチヤナギ (宮崎県:準絶滅危惧)																																																																																																																																																																																																																												
	チュウサギ (環境省:希少種/準絶滅危惧, 水産省:希少種)		ノダイオウ (環境省:絶滅危惧Ⅱ類)																																																																																																																																																																																																																												
	ツクシガモ (環境省:地域個体群/絶滅危惧ⅠB類, 宮崎県:絶滅危惧ⅠB類)		コギシギ (環境省:絶滅危惧Ⅱ類, 宮崎県:準絶滅危惧)																																																																																																																																																																																																																												
	オンドリ (環境省:希少種)		タガラシ (宮崎県:準絶滅危惧)																																																																																																																																																																																																																												
	トモエガモ (環境省:絶滅危惧Ⅱ類, 宮崎県:絶滅危惧ⅠB類)		ウマノズクサ (宮崎県:準絶滅危惧)																																																																																																																																																																																																																												
	ミサゴ (環境省:危急種/準絶滅危惧, 宮崎県:準絶滅危惧)		ナガミノツルキケマン (環境省:準絶滅危惧)																																																																																																																																																																																																																												
	ハチクマ (環境省:希少種/準絶滅危惧, 宮崎県:絶滅危惧Ⅱ類)		コイスガラシ (環境省:準絶滅危惧, 宮崎県:準絶滅危惧)																																																																																																																																																																																																																												
	オオタカ (環境省:絶滅危惧Ⅱ類, 宮崎県:準絶滅危惧)		ズイナ (宮崎県:絶滅危惧Ⅱ類)																																																																																																																																																																																																																												
	ハイタカ (環境省:希少種/準絶滅危惧, 宮崎県:準絶滅危惧)		タコノアシ (環境省:絶滅危惧Ⅱ類, 宮崎県:絶滅危惧Ⅱ類, 延岡市:希少性)																																																																																																																																																																																																																												
	サンバ (宮崎県:準絶滅危惧)		ハマナツメ (環境省:絶滅危惧ⅠB類, 宮崎県:絶滅危惧Ⅱ類, 延岡市:希少性)																																																																																																																																																																																																																												
	ハイイロチュウヒ (宮崎県:絶滅危惧Ⅱ類)		ハマボウ (宮崎県:準絶滅危惧, 延岡市:希少性)																																																																																																																																																																																																																												
	チュウヒ (環境省:危急種/絶滅危惧Ⅱ類, 宮崎県:絶滅危惧Ⅱ類)		ヒメミノハギ (宮崎県:準絶滅危惧)																																																																																																																																																																																																																												
	ハヤブサ (環境省:危急種/絶滅危惧Ⅱ類, 宮崎県:準絶滅危惧)		ミズマツバ (環境省:絶滅危惧Ⅱ類)																																																																																																																																																																																																																												
ヒクイナ (宮崎県:準絶滅危惧)	フサモ (宮崎県:絶滅危惧ⅠB類)																																																																																																																																																																																																																														
タマシギ (宮崎県:準絶滅危惧)	センブリ (宮崎県:準絶滅危惧)																																																																																																																																																																																																																														
アカアシシギ (環境省:絶滅危惧Ⅱ類)	ガガイモ (宮崎県:絶滅危惧Ⅱ類)																																																																																																																																																																																																																														
ホウロクシギ (環境省:絶滅危惧Ⅱ類, 宮崎県:準絶滅危惧)	シロネ (宮崎県:絶滅危惧ⅠB類)																																																																																																																																																																																																																														
チュウシャクシギ (環境省:種の保存法)	ナツノタムラソウ (宮崎県:判別不能)																																																																																																																																																																																																																														
コンシャクシギ (環境省:危急種/絶滅危惧ⅠA類, 宮崎県:絶滅危惧Ⅱ類)	ミゾコウジュ (環境省:準絶滅危惧)																																																																																																																																																																																																																														
セイトカシギ (環境省:希少種/絶滅危惧ⅠB類, 水産省:希少種)	ヒメナキミ (宮崎県:絶滅危惧Ⅱ類)																																																																																																																																																																																																																														
コアシサシ (環境省:種の保存法/希少種/絶滅危惧Ⅱ類, 宮崎県:準絶滅危惧)	オオヒナノウスツボ (宮崎県:絶滅危惧Ⅱ類)																																																																																																																																																																																																																														
アオバズク (宮崎県:準絶滅危惧)	カワヂシャ (環境省:準絶滅危惧)																																																																																																																																																																																																																														
サンショウクイ (環境省:絶滅危惧Ⅱ類)	ウラギク (環境省:絶滅危惧Ⅱ類, 宮崎県:絶滅危惧ⅠA類)																																																																																																																																																																																																																														
底生動物類	イシマキガイ (水産省:減少種)	セキシウモセンブリ (宮崎県:準絶滅危惧)																																																																																																																																																																																																																													
	カノコガイ (財)世界自然保護基金日本委員会:希少	シバナ (環境省:絶滅危惧Ⅱ類, 宮崎県:絶滅危惧Ⅱ類)																																																																																																																																																																																																																													
	ヒロクチカノコガイ (水産省:希少, 宮崎県:絶滅危惧ⅠB類)	イトモ (環境省:絶滅危惧Ⅱ類, 宮崎県:絶滅危惧ⅠB類)																																																																																																																																																																																																																													
	ナラビオカミミガイ (宮崎県:絶滅危惧ⅠA類, (財)世界自然保護基金日本委員会:希少)	イトクズモ (環境省:絶滅危惧Ⅱ類)																																																																																																																																																																																																																													
	オカミミガイ (水産省:危険種, (財)世界自然保護基金日本委員会:希少)	コアマモ (環境省:情報不足, 宮崎県:絶滅危惧Ⅱ類)																																																																																																																																																																																																																													
	モノアラガイ (環境省:準絶滅危惧)	ハナビゼキシウ (宮崎県:絶滅危惧ⅠA類)																																																																																																																																																																																																																													
	ミナミテナガエビ (水産省:減少種)	ヒメコウガイゼキサウ (宮崎県:絶滅危惧Ⅱ類)																																																																																																																																																																																																																													
	モズクガニ (水産省:減少傾向, (財)世界自然保護基金日本委員会:希少)	サイコクスカボ (宮崎県:絶滅危惧ⅠA類)																																																																																																																																																																																																																													
	クシテガニ (宮崎県:準絶滅危惧, (財)世界自然保護基金日本委員会:希少)	シオク (延岡市:希少性)																																																																																																																																																																																																																													
	カワスナガニ (環境省:/絶滅危惧ⅠB類/情報不足, 宮崎県:情報不足)	ウシク (宮崎県:絶滅危惧Ⅱ類)																																																																																																																																																																																																																													
	ヒメヤマトオサガニ (宮崎県:準絶滅危惧, (財)世界自然保護基金日本委員会:普通)	ミクリガヤ (環境省:絶滅危惧ⅠB類, 宮崎県:絶滅危惧ⅠA類)																																																																																																																																																																																																																													
	シオマネキ (環境省:準絶滅危惧, 水産省:希少, 宮崎県:準絶滅危惧, (財)世界自然保護基金日本委員会:希少)	ノテンツキ (宮崎県:絶滅危惧ⅠB類)																																																																																																																																																																																																																													
	ハクセンシオマネキ (環境省:準絶滅危惧, 宮崎県:準絶滅危惧, (財)世界自然保護基金日本委員会:希少)	ナガボテンツキ (宮崎県:絶滅危惧ⅠA類)																																																																																																																																																																																																																													
	ノコギリガザミ (宮崎県:準絶滅危惧)	イセウキヤガラ (宮崎県:準絶滅危惧)																																																																																																																																																																																																																													
	ムカシトンボ (宮崎県:準絶滅危惧)	マツカサススキ (宮崎県:絶滅危惧ⅠB類)																																																																																																																																																																																																																													
クロサナエ (宮崎県:準絶滅危惧)	コウキヤガラ (宮崎県:絶滅危惧ⅠB類)																																																																																																																																																																																																																														
アオサナエ (宮崎県:準絶滅危惧)	ウキヤガ (宮崎県:絶滅危惧ⅠA類)																																																																																																																																																																																																																														
オナガサナエ (宮崎県:準絶滅危惧)	クサガメ (宮崎県:絶滅危惧Ⅱ類)																																																																																																																																																																																																																														
キイロヤマトンボ (環境省:絶滅危惧Ⅱ類, 宮崎県:絶滅危惧Ⅱ類, 漁業協同組合:漁業権対象種)	イシガメ (宮崎県:絶滅危惧Ⅱ類)																																																																																																																																																																																																																														
コガタノゲゴロウ (漁業協同組合:漁業権対象種)	スッポン (宮崎県:情報不足)																																																																																																																																																																																																																														
キベリマメゲンゴロウ (宮崎県:準絶滅危惧)	ジネズミ (宮崎県:情報不足)																																																																																																																																																																																																																														
ツマキレオナガミズズミ (宮崎県:準絶滅危惧)	ムササビ (宮崎県:準絶滅危惧)																																																																																																																																																																																																																														
	カヤネズミ (レッドデータ日本の哺乳類, 日本哺乳類学:不能イタチ・イタチ属の一種 (宮崎県:準絶滅危惧))																																																																																																																																																																																																																														
	ニホンヒキガエル (宮崎県:準絶滅危惧)																																																																																																																																																																																																																														
	トノサマガエル (宮崎県:準絶滅危惧)																																																																																																																																																																																																																														
	オオサンショウウオ (環境省:準絶滅危惧)																																																																																																																																																																																																																														
	ベッコウサンショウウオ (環境省:準絶滅危惧)																																																																																																																																																																																																																														
分類	希少種	分類	希少種																																																																																																																																																																																																																												
鳥類	アカアシシギ (環境省:絶滅危惧Ⅱ類)	植物	イセウキヤガラ (宮崎県:準絶滅危惧)																																																																																																																																																																																																																												
	カンムリカイツブリ (環境省:地域個体群)		イトクズモ (環境省:絶滅危惧Ⅱ類)																																																																																																																																																																																																																												
	クロサギ (宮崎県:準絶滅危惧)		ウマノズクサ (宮崎県:準絶滅危惧)																																																																																																																																																																																																																												
	サンバ (宮崎県:準絶滅危惧)		ウラギク (環境省:絶滅危惧Ⅱ類/宮崎県:絶滅危惧ⅠA類)																																																																																																																																																																																																																												
	サンショウクイ (環境省:絶滅危惧Ⅱ類)		ガガイモ (宮崎県:絶滅危惧Ⅱ類)																																																																																																																																																																																																																												
	セイトカシギ (環境省:絶滅危惧ⅠB類)		カワヂシャ (環境省:準絶滅危惧)																																																																																																																																																																																																																												
	チュウサギ (環境省:準絶滅危惧)		コアマモ (環境省:情報不足/宮崎県:準絶滅危惧)																																																																																																																																																																																																																												
	カワウ (緑の国勢調査報告書:自然)		コイスガラシ (環境省:準絶滅危惧/宮崎県:準絶滅危惧)																																																																																																																																																																																																																												
	ヨシゴイ (宮崎県:準絶滅危惧)		ゴマクサ (環境省:絶滅危惧ⅠB類/宮崎県:準絶滅危惧)																																																																																																																																																																																																																												
	トモエガモ (環境省:絶滅危惧Ⅱ類/宮崎県:絶滅危惧ⅠB類)		シバナ (環境省:絶滅危惧Ⅱ類/宮崎県:絶滅危惧Ⅱ類)																																																																																																																																																																																																																												
	タイナ (宮崎県:準絶滅危惧)		セキシウモ (宮崎県:準絶滅危惧)																																																																																																																																																																																																																												
	オオアシシギ (緑の国勢調査報告書:自然/環境省:準絶滅危惧/宮崎県:絶滅危惧Ⅱ類)		タガラシ (宮崎県:準絶滅危惧)																																																																																																																																																																																																																												
	アオバズク (宮崎県:準絶滅危惧)		タコノアシ (環境省:絶滅危惧Ⅱ類/宮崎県:絶滅危惧Ⅱ類)																																																																																																																																																																																																																												
	フクロウ (宮崎県:絶滅危惧Ⅱ類)		ツクシアブラガヤ (環境省:絶滅危惧ⅠB類)																																																																																																																																																																																																																												
	ツメナガセキレイ (緑の国勢調査報告書:希少)		ハマボウ (宮崎県:準絶滅危惧)																																																																																																																																																																																																																												
ノジコ (環境省:準絶滅危惧)	ヒメナキミ (宮崎県:絶滅危惧Ⅱ類)																																																																																																																																																																																																																														
オオタカ (緑の国勢調査報告書:保存/環境省:絶滅危惧Ⅱ類/宮崎県:準絶滅危惧)	フサモ (宮崎県:絶滅危惧ⅠB類)																																																																																																																																																																																																																														
魚類	ヤマセミ (緑の国勢調査報告書:自然)	ナガボテンツキ (宮崎県:絶滅危惧ⅠA類)																																																																																																																																																																																																																													
	カワセミ (緑の国勢調査報告書:自然)	ナガミノツルキケマン (環境省:準絶滅危惧)																																																																																																																																																																																																																													
	チュウヒ (環境省:絶滅危惧Ⅱ類/宮崎県:絶滅危惧Ⅱ類)	ノダイオウ (環境省:絶滅危惧Ⅱ類)																																																																																																																																																																																																																													
	ツクシガモ (環境省:絶滅危惧ⅠB類/宮崎県:絶滅危惧ⅠB類)	ハマナツメ (環境省:絶滅危惧ⅠB類/宮崎県:絶滅危惧Ⅱ類)																																																																																																																																																																																																																													
	ハイイロチュウヒ (宮崎県:絶滅危惧Ⅱ類)	ハマボウ (宮崎県:準絶滅危惧)																																																																																																																																																																																																																													
	ハイタカ (環境省:準絶滅危惧/宮崎県:準絶滅危惧)	マツカサススキ (宮崎県:絶滅危惧ⅠB類)																																																																																																																																																																																																																													
	ハチクマ (環境省:準絶滅危惧/宮崎県:絶滅危惧Ⅱ類)	マルバノサワトウガラシ (環境省:絶滅危惧ⅠB類/宮崎県:準絶滅危惧)																																																																																																																																																																																																																													
	ハヤブサ (種の保存に関する法律:重要/環境省:保存/絶滅危惧Ⅱ類/宮崎県:準絶滅危惧)	ミズマツバ (環境省:絶滅危惧Ⅱ類)																																																																																																																																																																																																																													
	ヒクイナ (宮崎県:準絶滅危惧)	ミゾコウジュ (環境省:準絶滅危惧)																																																																																																																																																																																																																													
	ホウロクシギ (環境省:絶滅危惧Ⅱ類/宮崎県:準絶滅危惧)	ミチヤナギ (宮崎県:準絶滅危惧)																																																																																																																																																																																																																													
	ミサゴ (環境省:準絶滅危惧/宮崎県:準絶滅危惧)	ククオンソウ (環境省:絶滅危惧ⅠB類/宮崎県:絶滅危惧Ⅱ類)																																																																																																																																																																																																																													
	オンドリ (環境省:希少種)	コギシギ (環境省:絶滅危惧Ⅱ類/宮崎県:準絶滅危惧)																																																																																																																																																																																																																													
	クマタカ (環境省:絶滅危惧ⅠB類/宮崎県:絶滅危惧Ⅱ類)	ズイナ (宮崎県:絶滅危惧Ⅱ類)																																																																																																																																																																																																																													
	タマシギ (宮崎県:準絶滅危惧)	ヒメミノハギ (宮崎県:準絶滅危惧)																																																																																																																																																																																																																													
	コシャクシギ (環境省:絶滅危惧ⅠA類/宮崎県:絶滅危惧Ⅱ類)	センブリ (宮崎県:準絶滅危惧)																																																																																																																																																																																																																													
コアシサシ (環境省:絶滅危惧Ⅱ類/宮崎県:準絶滅危惧)	シロネ (宮崎県:絶滅危惧ⅠB類)																																																																																																																																																																																																																														
ホシガラス (宮崎県:絶滅危惧Ⅱ類)	オオヒナノウスツボ (宮崎県:絶滅危惧Ⅱ類)																																																																																																																																																																																																																														
両生類	ドジョウ (宮崎県:準絶滅危惧)	ハナビゼキシウ (宮崎県:絶滅危惧ⅠA類)																																																																																																																																																																																																																													
	ナマズ (宮崎県:準絶滅危惧)	ヒメコウガイゼキサウ (宮崎県:絶滅危惧Ⅱ類)																																																																																																																																																																																																																													
	メダカ (環境省:絶滅危惧Ⅱ類/宮崎県:絶滅危惧Ⅱ類)	ギンラン (宮崎県:絶滅危惧Ⅱ類)																																																																																																																																																																																																																													
	カマキリ (緑の国勢調査報告書:重要/宮崎県:準絶滅危惧)	ジネズミ (宮崎県:情報不足)																																																																																																																																																																																																																													
	アカメ (環境省:準絶滅危惧/宮崎県:絶滅危惧Ⅱ類)	ホンドモモンガ (宮崎県:準絶滅危惧)																																																																																																																																																																																																																													
	カワアナゴ (環境省:宮崎県:情報不足)	ムササビ (宮崎県:準絶滅危惧)																																																																																																																																																																																																																													
	トビハゼ (宮崎県:絶滅危惧Ⅱ類)	ヤマネ (環境省:準絶滅危惧/宮崎県:絶滅危惧Ⅱ類)																																																																																																																																																																																																																													
	チクゼンハゼ (環境省:絶滅危惧ⅠB類)	ニホンイタチ (宮崎県:準絶滅危惧)																																																																																																																																																																																																																													
	クボハゼ (環境省:絶滅危惧ⅠB類)	ニホンカモシカ (環境省:特別天然記念物/宮崎県:保護上重要な種)																																																																																																																																																																																																																													
	イドミズハゼ (環境省:情報不足)																																																																																																																																																																																																																														
	シロウオ (環境省:準絶滅危惧)																																																																																																																																																																																																																														
	タノゴモドキ (環境省:絶滅危惧ⅠB類)																																																																																																																																																																																																																														
	トノサマガエル (宮崎県:準絶滅危惧)																																																																																																																																																																																																																														
	ニホンヒキガエル (宮崎県:準絶滅危惧)																																																																																																																																																																																																																														
	ベッコウサンショウウオ (環境省:準絶滅危惧)																																																																																																																																																																																																																														
オオサンショウウオ (宮崎県:準絶滅危惧)																																																																																																																																																																																																																															
オオダイゴワラサンショウウオ (環境省:地域個体群/宮崎県:絶滅危惧ⅠB類)																																																																																																																																																																																																																															

五ヶ瀬川水系河川整備計画（原案）と五ヶ瀬川水系河川整備計画（案）との対比表

意見	対応
イチモンジタナゴとブルーギルは特定種ではあるけれど、外来種であるため、記載すべきではない。	
キイロヤマトンボとコガタノゲンゴロウが「漁業権対象種」となっているが、間違いではないか	単純記載ミスの修正、その他学識者等の意見をふまえ、計画案 P32, 33 の特定種一覧表を修正しました。

頁	五ヶ瀬川水系河川整備計画（原案）	五ヶ瀬川水系河川整備計画（案）																												
P32	<p>表 2-2-7 (2)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="237 483 905 546">分類</th> <th data-bbox="905 483 1528 546">希少種</th> <th data-bbox="237 546 905 609">分類</th> <th data-bbox="905 546 1528 609">希少種</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="237 609 905 903">陸上昆虫類</td> <td data-bbox="905 609 1528 903">                     ベニイトトンボ(環境省:絶滅危惧Ⅱ類)                      サラサヤンマ(環境省:絶滅危惧Ⅱ類, 宮崎県:準絶滅危惧)                      オオナガサナエ(宮崎県:準絶滅危惧)                      コシアキトンボ(延岡市:希少性)                      ハマスズ(宮崎県:準絶滅危惧)                      ハウチウウンカ(環境省:希少種)                      シロヘリツチカメムシ(環境省:絶滅危惧Ⅱ類)                      ベニチカメムシ(宮崎県:準絶滅危惧)                      タガメ(環境省:絶滅危惧Ⅱ類)                      オオミノガ(宮崎県:絶滅危惧Ⅱ類)                      オオチャバナセセリ(延岡市:希少性)                      キマダラセセリ(延岡市:希少性)                      タイワンツバメシジミ(環境省:希少種/絶滅危惧ⅠA類+絶滅危惧ⅠB類, 宮崎県:絶滅危惧Ⅱ類)                      コムラサキ(宮崎県:準絶滅危惧)                      ツマグロヒョウモン(延岡市:希少性)                      ゴマダラチョウ(延岡市:希少性)                      ヒオドシチョウ(宮崎県:準絶滅危惧)                      ナガサキアゲハ(延岡市:希少性)                      ツマグロキチョウ(環境省:絶滅危惧Ⅱ類)                      ウスムラサキノメイガ(延岡市:希少性)                      コブノメイガ(延岡市:希少性)                      ウスオビクロノメイガ(延岡市:希少性)                      シロオビノメイガ(延岡市:希少性)                      シロスジトガリメイガ(延岡市:希少性)                      ヨツメノエダシヤク(延岡市:希少性)                      キアシドクガ(延岡市:希少性)                      ニジオビベニアツバ(宮崎県:準絶滅危惧, 岡市:希少性)                      アトジロキヨトウ(延岡市:希少性)                 </td> <td data-bbox="905 609 1528 903">陸上昆虫類</td> <td data-bbox="905 609 1528 903">                     サンカククチバ(延岡市:希少性)                      ウミホソチビゴミムシ(環境省:絶滅危惧Ⅱ類) シロヘリハンミョウ(宮崎県:準絶滅危惧)                      コガタノゲンゴロウ(宮崎県:準絶滅危惧)                      キベリマメゲンゴロウ(宮崎県:準絶滅危惧)                      コガムシ(宮崎県:絶滅危惧Ⅱ類)                      クロカナブン(宮崎県:準絶滅危惧)                      ニホンミツバチ(宮崎県:準絶滅危惧)                 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="237 903 905 1386">陸上昆虫類</td> <td data-bbox="905 903 1528 1386">                     ウナギ(漁業協同組合:漁業権対象種)                      コイ(漁業協同組合:漁業権対象種)                      ギンブナ(漁業協同組合:漁業権対象種)                      ゲンゴロウブナ(漁業協同組合:漁業権対象種)                      イチモンジタナゴ(環境省:絶滅危惧ⅠB類, 水産庁:希少種)                      ウグイ(漁業協同組合:漁業権対象種)                      ナマズ(宮崎県:準絶滅危惧)                      アユ(漁業協同組合:漁業権対象種)                      ヤマメ(漁業協同組合:漁業権対象種)                      メダカ(環境省:絶滅危惧Ⅱ類, 宮崎県:絶滅危惧Ⅱ類)                      カマキリ(水産庁:減少種, 宮崎県:準絶滅危惧)                      ニセシマイサキ(環境省:絶滅危惧ⅠB類)                      ブルーギル([河川における外来種対応に向けて]の掲載種)                      シロウオ(環境省:準絶滅危惧, 水産省:減少傾向)                      イドミミズハゼ(環境省:情報不足)                      アカメ(環境省:準絶滅危惧, 水産省:減少種, 宮崎県:絶滅危惧Ⅱ類)                      トビハゼ(水産省:減少種, 宮崎県:絶滅危惧Ⅱ類)                      キセルハゼ(環境省:絶滅危惧ⅠA類)                      チクゼンハゼ(環境省:絶滅危惧ⅠB類)                      カワアナゴ(宮崎県:情報不足)                      ドジョウ(宮崎県:絶滅危惧Ⅱ類)                 </td> <td data-bbox="905 903 1528 1386">魚介類</td> <td data-bbox="905 903 1528 1386"></td> </tr> </tbody> </table> <p>出典) 河川水辺の国勢調査(平成2年~17年)                      北川漁類調査(平成11年)                      北川鳥類調査 業務報告書(平成12年, 平成13年)                      北川魚類調査 業務報告書(平成12年, 平成13年)                      五ヶ瀬川河川環境検討 業務報告書(平成13年)                      大瀬川河川環境検討 業務報告書(平成13年)</p>	分類	希少種	分類	希少種	陸上昆虫類	ベニイトトンボ(環境省:絶滅危惧Ⅱ類) サラサヤンマ(環境省:絶滅危惧Ⅱ類, 宮崎県:準絶滅危惧) オオナガサナエ(宮崎県:準絶滅危惧) コシアキトンボ(延岡市:希少性) ハマスズ(宮崎県:準絶滅危惧) ハウチウウンカ(環境省:希少種) シロヘリツチカメムシ(環境省:絶滅危惧Ⅱ類) ベニチカメムシ(宮崎県:準絶滅危惧) タガメ(環境省:絶滅危惧Ⅱ類) オオミノガ(宮崎県:絶滅危惧Ⅱ類) オオチャバナセセリ(延岡市:希少性) キマダラセセリ(延岡市:希少性) タイワンツバメシジミ(環境省:希少種/絶滅危惧ⅠA類+絶滅危惧ⅠB類, 宮崎県:絶滅危惧Ⅱ類) コムラサキ(宮崎県:準絶滅危惧) ツマグロヒョウモン(延岡市:希少性) ゴマダラチョウ(延岡市:希少性) ヒオドシチョウ(宮崎県:準絶滅危惧) ナガサキアゲハ(延岡市:希少性) ツマグロキチョウ(環境省:絶滅危惧Ⅱ類) ウスムラサキノメイガ(延岡市:希少性) コブノメイガ(延岡市:希少性) ウスオビクロノメイガ(延岡市:希少性) シロオビノメイガ(延岡市:希少性) シロスジトガリメイガ(延岡市:希少性) ヨツメノエダシヤク(延岡市:希少性) キアシドクガ(延岡市:希少性) ニジオビベニアツバ(宮崎県:準絶滅危惧, 岡市:希少性) アトジロキヨトウ(延岡市:希少性)	陸上昆虫類	サンカククチバ(延岡市:希少性) ウミホソチビゴミムシ(環境省:絶滅危惧Ⅱ類) シロヘリハンミョウ(宮崎県:準絶滅危惧) コガタノゲンゴロウ(宮崎県:準絶滅危惧) キベリマメゲンゴロウ(宮崎県:準絶滅危惧) コガムシ(宮崎県:絶滅危惧Ⅱ類) クロカナブン(宮崎県:準絶滅危惧) ニホンミツバチ(宮崎県:準絶滅危惧)	陸上昆虫類	ウナギ(漁業協同組合:漁業権対象種) コイ(漁業協同組合:漁業権対象種) ギンブナ(漁業協同組合:漁業権対象種) ゲンゴロウブナ(漁業協同組合:漁業権対象種) イチモンジタナゴ(環境省:絶滅危惧ⅠB類, 水産庁:希少種) ウグイ(漁業協同組合:漁業権対象種) ナマズ(宮崎県:準絶滅危惧) アユ(漁業協同組合:漁業権対象種) ヤマメ(漁業協同組合:漁業権対象種) メダカ(環境省:絶滅危惧Ⅱ類, 宮崎県:絶滅危惧Ⅱ類) カマキリ(水産庁:減少種, 宮崎県:準絶滅危惧) ニセシマイサキ(環境省:絶滅危惧ⅠB類) ブルーギル([河川における外来種対応に向けて]の掲載種) シロウオ(環境省:準絶滅危惧, 水産省:減少傾向) イドミミズハゼ(環境省:情報不足) アカメ(環境省:準絶滅危惧, 水産省:減少種, 宮崎県:絶滅危惧Ⅱ類) トビハゼ(水産省:減少種, 宮崎県:絶滅危惧Ⅱ類) キセルハゼ(環境省:絶滅危惧ⅠA類) チクゼンハゼ(環境省:絶滅危惧ⅠB類) カワアナゴ(宮崎県:情報不足) ドジョウ(宮崎県:絶滅危惧Ⅱ類)	魚介類		<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="1528 483 2151 546">分類</th> <th data-bbox="2151 483 2810 546">希少種</th> <th data-bbox="1528 546 2151 609">分類</th> <th data-bbox="2151 546 2810 609">希少種</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="1528 609 2151 1228">陸上昆虫類</td> <td data-bbox="2151 609 2810 1228">                     オナガサナエ(宮崎県:準絶滅危惧)                      カラスシジミ(宮崎県:準絶滅危惧)                      ゴイシジミ(宮崎県:準絶滅危惧)                      コムラサキ(宮崎県:準絶滅危惧)                      ヒオドシチョウ(宮崎県:準絶滅危惧)                      ツマグロキチョウ(環境省:絶滅危惧Ⅱ類)                      ウラナミジャノメ(環境省:絶滅危惧Ⅱ類)                      ハラビロハンミョウ(環境省:絶滅危惧Ⅱ類/宮崎県:準絶滅危惧)                      シロヘリハンミョウ(宮崎県:準絶滅危惧)                      キベリマメゲンゴロウ(宮崎県:準絶滅危惧)                      ヤマトタマムシ(宮崎県:準絶滅危惧)                      ニホンミツバチ(宮崎県:準絶滅危惧)                      ベニイトトンボ(環境省:絶滅危惧Ⅱ類)                      サラサヤンマ(環境省:絶滅危惧Ⅱ類/宮崎県:準絶滅危惧)                      ハマスズ(宮崎県:準絶滅危惧)                      ハウチウウンカ(環境省:希少種)                      ベニツチカメムシ(宮崎県:準絶滅危惧)                      タガメ(環境省:絶滅危惧Ⅱ類)                      オオミノガ(宮崎県:絶滅危惧Ⅱ類)                      タイワンツバメシジミ(環境省:絶滅危惧/宮崎県:絶滅危惧Ⅱ類)                      ニジオビベニアツバ(宮崎県:準絶滅危惧)                      コガムシ(宮崎県:絶滅危惧Ⅱ類)                      クロカナブン(宮崎県:準絶滅危惧)                 </td> <td data-bbox="1528 609 2151 1228">陸上昆虫類</td> <td data-bbox="2151 609 2810 1228">                     アオサナエ(宮崎県:準絶滅危惧)                      アミメカワゲラ(環境省:準絶滅危惧)                      オナガサナエ(宮崎県:準絶滅危惧)                      キベリマメゲンゴロウ(宮崎県:準絶滅危惧)                      クロサナエ(宮崎県:準絶滅危惧)                      コガタノゲンゴロウ(宮崎県:準絶滅危惧/環境省:絶滅危惧Ⅰ類)                      ムカシトンボ(宮崎県:準絶滅危惧)                      キイロヤマトンボ(環境省:絶滅危惧Ⅱ類/宮崎県:絶滅危惧Ⅱ類)                      ドブガイ(宮崎県:情報不足)                      グンバイトンボ(環境省:絶滅危惧Ⅱ類/宮崎県:絶滅危惧ⅠB類)                      タバサナエ(宮崎県:絶滅危惧Ⅱ類)                      マツカサガイ(環境省:準絶滅危惧/宮崎県:情報不足)                      ツマキレオナガミズマン(宮崎県:準絶滅危惧)                      ヒメヤマトオサガニ(宮崎県:準絶滅危惧)                      ノコギリガザミ(宮崎県:準絶滅危惧)                      ヒロクチカノコガイ(宮崎県:絶滅危惧ⅠB類)                      ナラビオカミミガイ(宮崎県:絶滅危惧ⅠA類)                      シオマネキ(環境省:準絶滅危惧/宮崎県:準絶滅危惧)                      ハクセンシオマネキ(環境省:準絶滅危惧/宮崎県:準絶滅危惧)                      モノアラガイ(環境省:準絶滅危惧)                      カワスナガニ(環境省:情報不足/宮崎県:情報不足)                      アミメノコギリガザミ(宮崎県:準絶滅危惧)                 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="1528 1228 2151 1533"></td> <td data-bbox="2151 1228 2810 1533">                     ※普通種……鳥類約 110 種、魚類約 200 種、植物類約 730 種、哺乳類 10 種、爬虫類 10 種、両生類約 10 種、                      陸上昆虫類約 340 種、底生動物類約 360 種                 </td> <td data-bbox="1528 1228 2151 1533"></td> <td data-bbox="2151 1228 2810 1533"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="1528 1533 2151 1978"></td> <td data-bbox="2151 1533 2810 1978">                     出典) 河川水辺の国勢調査(平成2年~17年)                      北川鳥類調査 業務報告書(平成11年~15年)                      北川魚類調査 業務報告書(平成12年~16年)                      五ヶ瀬川河川環境検討 業務報告書(平成13年)                      大瀬川河川環境検討 業務報告書(平成13年)                 </td> <td data-bbox="1528 1533 2151 1978"></td> <td data-bbox="2151 1533 2810 1978"></td> </tr> </tbody> </table>	分類	希少種	分類	希少種	陸上昆虫類	オナガサナエ(宮崎県:準絶滅危惧) カラスシジミ(宮崎県:準絶滅危惧) ゴイシジミ(宮崎県:準絶滅危惧) コムラサキ(宮崎県:準絶滅危惧) ヒオドシチョウ(宮崎県:準絶滅危惧) ツマグロキチョウ(環境省:絶滅危惧Ⅱ類) ウラナミジャノメ(環境省:絶滅危惧Ⅱ類) ハラビロハンミョウ(環境省:絶滅危惧Ⅱ類/宮崎県:準絶滅危惧) シロヘリハンミョウ(宮崎県:準絶滅危惧) キベリマメゲンゴロウ(宮崎県:準絶滅危惧) ヤマトタマムシ(宮崎県:準絶滅危惧) ニホンミツバチ(宮崎県:準絶滅危惧) ベニイトトンボ(環境省:絶滅危惧Ⅱ類) サラサヤンマ(環境省:絶滅危惧Ⅱ類/宮崎県:準絶滅危惧) ハマスズ(宮崎県:準絶滅危惧) ハウチウウンカ(環境省:希少種) ベニツチカメムシ(宮崎県:準絶滅危惧) タガメ(環境省:絶滅危惧Ⅱ類) オオミノガ(宮崎県:絶滅危惧Ⅱ類) タイワンツバメシジミ(環境省:絶滅危惧/宮崎県:絶滅危惧Ⅱ類) ニジオビベニアツバ(宮崎県:準絶滅危惧) コガムシ(宮崎県:絶滅危惧Ⅱ類) クロカナブン(宮崎県:準絶滅危惧)	陸上昆虫類	アオサナエ(宮崎県:準絶滅危惧) アミメカワゲラ(環境省:準絶滅危惧) オナガサナエ(宮崎県:準絶滅危惧) キベリマメゲンゴロウ(宮崎県:準絶滅危惧) クロサナエ(宮崎県:準絶滅危惧) コガタノゲンゴロウ(宮崎県:準絶滅危惧/環境省:絶滅危惧Ⅰ類) ムカシトンボ(宮崎県:準絶滅危惧) キイロヤマトンボ(環境省:絶滅危惧Ⅱ類/宮崎県:絶滅危惧Ⅱ類) ドブガイ(宮崎県:情報不足) グンバイトンボ(環境省:絶滅危惧Ⅱ類/宮崎県:絶滅危惧ⅠB類) タバサナエ(宮崎県:絶滅危惧Ⅱ類) マツカサガイ(環境省:準絶滅危惧/宮崎県:情報不足) ツマキレオナガミズマン(宮崎県:準絶滅危惧) ヒメヤマトオサガニ(宮崎県:準絶滅危惧) ノコギリガザミ(宮崎県:準絶滅危惧) ヒロクチカノコガイ(宮崎県:絶滅危惧ⅠB類) ナラビオカミミガイ(宮崎県:絶滅危惧ⅠA類) シオマネキ(環境省:準絶滅危惧/宮崎県:準絶滅危惧) ハクセンシオマネキ(環境省:準絶滅危惧/宮崎県:準絶滅危惧) モノアラガイ(環境省:準絶滅危惧) カワスナガニ(環境省:情報不足/宮崎県:情報不足) アミメノコギリガザミ(宮崎県:準絶滅危惧)		※普通種……鳥類約 110 種、魚類約 200 種、植物類約 730 種、哺乳類 10 種、爬虫類 10 種、両生類約 10 種、 陸上昆虫類約 340 種、底生動物類約 360 種				出典) 河川水辺の国勢調査(平成2年~17年) 北川鳥類調査 業務報告書(平成11年~15年) 北川魚類調査 業務報告書(平成12年~16年) 五ヶ瀬川河川環境検討 業務報告書(平成13年) 大瀬川河川環境検討 業務報告書(平成13年)		
分類	希少種	分類	希少種																											
陸上昆虫類	ベニイトトンボ(環境省:絶滅危惧Ⅱ類) サラサヤンマ(環境省:絶滅危惧Ⅱ類, 宮崎県:準絶滅危惧) オオナガサナエ(宮崎県:準絶滅危惧) コシアキトンボ(延岡市:希少性) ハマスズ(宮崎県:準絶滅危惧) ハウチウウンカ(環境省:希少種) シロヘリツチカメムシ(環境省:絶滅危惧Ⅱ類) ベニチカメムシ(宮崎県:準絶滅危惧) タガメ(環境省:絶滅危惧Ⅱ類) オオミノガ(宮崎県:絶滅危惧Ⅱ類) オオチャバナセセリ(延岡市:希少性) キマダラセセリ(延岡市:希少性) タイワンツバメシジミ(環境省:希少種/絶滅危惧ⅠA類+絶滅危惧ⅠB類, 宮崎県:絶滅危惧Ⅱ類) コムラサキ(宮崎県:準絶滅危惧) ツマグロヒョウモン(延岡市:希少性) ゴマダラチョウ(延岡市:希少性) ヒオドシチョウ(宮崎県:準絶滅危惧) ナガサキアゲハ(延岡市:希少性) ツマグロキチョウ(環境省:絶滅危惧Ⅱ類) ウスムラサキノメイガ(延岡市:希少性) コブノメイガ(延岡市:希少性) ウスオビクロノメイガ(延岡市:希少性) シロオビノメイガ(延岡市:希少性) シロスジトガリメイガ(延岡市:希少性) ヨツメノエダシヤク(延岡市:希少性) キアシドクガ(延岡市:希少性) ニジオビベニアツバ(宮崎県:準絶滅危惧, 岡市:希少性) アトジロキヨトウ(延岡市:希少性)	陸上昆虫類	サンカククチバ(延岡市:希少性) ウミホソチビゴミムシ(環境省:絶滅危惧Ⅱ類) シロヘリハンミョウ(宮崎県:準絶滅危惧) コガタノゲンゴロウ(宮崎県:準絶滅危惧) キベリマメゲンゴロウ(宮崎県:準絶滅危惧) コガムシ(宮崎県:絶滅危惧Ⅱ類) クロカナブン(宮崎県:準絶滅危惧) ニホンミツバチ(宮崎県:準絶滅危惧)																											
陸上昆虫類	ウナギ(漁業協同組合:漁業権対象種) コイ(漁業協同組合:漁業権対象種) ギンブナ(漁業協同組合:漁業権対象種) ゲンゴロウブナ(漁業協同組合:漁業権対象種) イチモンジタナゴ(環境省:絶滅危惧ⅠB類, 水産庁:希少種) ウグイ(漁業協同組合:漁業権対象種) ナマズ(宮崎県:準絶滅危惧) アユ(漁業協同組合:漁業権対象種) ヤマメ(漁業協同組合:漁業権対象種) メダカ(環境省:絶滅危惧Ⅱ類, 宮崎県:絶滅危惧Ⅱ類) カマキリ(水産庁:減少種, 宮崎県:準絶滅危惧) ニセシマイサキ(環境省:絶滅危惧ⅠB類) ブルーギル([河川における外来種対応に向けて]の掲載種) シロウオ(環境省:準絶滅危惧, 水産省:減少傾向) イドミミズハゼ(環境省:情報不足) アカメ(環境省:準絶滅危惧, 水産省:減少種, 宮崎県:絶滅危惧Ⅱ類) トビハゼ(水産省:減少種, 宮崎県:絶滅危惧Ⅱ類) キセルハゼ(環境省:絶滅危惧ⅠA類) チクゼンハゼ(環境省:絶滅危惧ⅠB類) カワアナゴ(宮崎県:情報不足) ドジョウ(宮崎県:絶滅危惧Ⅱ類)	魚介類																												
分類	希少種	分類	希少種																											
陸上昆虫類	オナガサナエ(宮崎県:準絶滅危惧) カラスシジミ(宮崎県:準絶滅危惧) ゴイシジミ(宮崎県:準絶滅危惧) コムラサキ(宮崎県:準絶滅危惧) ヒオドシチョウ(宮崎県:準絶滅危惧) ツマグロキチョウ(環境省:絶滅危惧Ⅱ類) ウラナミジャノメ(環境省:絶滅危惧Ⅱ類) ハラビロハンミョウ(環境省:絶滅危惧Ⅱ類/宮崎県:準絶滅危惧) シロヘリハンミョウ(宮崎県:準絶滅危惧) キベリマメゲンゴロウ(宮崎県:準絶滅危惧) ヤマトタマムシ(宮崎県:準絶滅危惧) ニホンミツバチ(宮崎県:準絶滅危惧) ベニイトトンボ(環境省:絶滅危惧Ⅱ類) サラサヤンマ(環境省:絶滅危惧Ⅱ類/宮崎県:準絶滅危惧) ハマスズ(宮崎県:準絶滅危惧) ハウチウウンカ(環境省:希少種) ベニツチカメムシ(宮崎県:準絶滅危惧) タガメ(環境省:絶滅危惧Ⅱ類) オオミノガ(宮崎県:絶滅危惧Ⅱ類) タイワンツバメシジミ(環境省:絶滅危惧/宮崎県:絶滅危惧Ⅱ類) ニジオビベニアツバ(宮崎県:準絶滅危惧) コガムシ(宮崎県:絶滅危惧Ⅱ類) クロカナブン(宮崎県:準絶滅危惧)	陸上昆虫類	アオサナエ(宮崎県:準絶滅危惧) アミメカワゲラ(環境省:準絶滅危惧) オナガサナエ(宮崎県:準絶滅危惧) キベリマメゲンゴロウ(宮崎県:準絶滅危惧) クロサナエ(宮崎県:準絶滅危惧) コガタノゲンゴロウ(宮崎県:準絶滅危惧/環境省:絶滅危惧Ⅰ類) ムカシトンボ(宮崎県:準絶滅危惧) キイロヤマトンボ(環境省:絶滅危惧Ⅱ類/宮崎県:絶滅危惧Ⅱ類) ドブガイ(宮崎県:情報不足) グンバイトンボ(環境省:絶滅危惧Ⅱ類/宮崎県:絶滅危惧ⅠB類) タバサナエ(宮崎県:絶滅危惧Ⅱ類) マツカサガイ(環境省:準絶滅危惧/宮崎県:情報不足) ツマキレオナガミズマン(宮崎県:準絶滅危惧) ヒメヤマトオサガニ(宮崎県:準絶滅危惧) ノコギリガザミ(宮崎県:準絶滅危惧) ヒロクチカノコガイ(宮崎県:絶滅危惧ⅠB類) ナラビオカミミガイ(宮崎県:絶滅危惧ⅠA類) シオマネキ(環境省:準絶滅危惧/宮崎県:準絶滅危惧) ハクセンシオマネキ(環境省:準絶滅危惧/宮崎県:準絶滅危惧) モノアラガイ(環境省:準絶滅危惧) カワスナガニ(環境省:情報不足/宮崎県:情報不足) アミメノコギリガザミ(宮崎県:準絶滅危惧)																											
	※普通種……鳥類約 110 種、魚類約 200 種、植物類約 730 種、哺乳類 10 種、爬虫類 10 種、両生類約 10 種、 陸上昆虫類約 340 種、底生動物類約 360 種																													
	出典) 河川水辺の国勢調査(平成2年~17年) 北川鳥類調査 業務報告書(平成11年~15年) 北川魚類調査 業務報告書(平成12年~16年) 五ヶ瀬川河川環境検討 業務報告書(平成13年) 大瀬川河川環境検討 業務報告書(平成13年)																													

五ヶ瀬川水系河川整備計画（原案）と五ヶ瀬川水系河川整備計画（案）との対比表

意見	対応
	意見はありませんでしたが、単純記載ミスを修正します。

頁	五ヶ瀬川水系河川整備計画（原案）	五ヶ瀬川水系河川整備計画（案）																																																																																				
P33	<p>2) 水質に関する現状と課題</p> <p>五ヶ瀬川の水質を河川汚濁の一般的な指標である BOD (75%値)<sup>※2</sup> についてみると環境基準値<sup>※1</sup> 河川 A 類型に指定されている亀井橋上流の五ヶ瀬川本川と派川大瀬川では良好な状況が続いており、特に下水道整備と相まって近年では特に良好な状況になっています。</p> <p>また、その他の支川を含む地点は環境基準値河川 B 類型を指定されており、支川祝子川を除き良好な状況が続いています。祝子川については、近年 BOD (75%値) は改善傾向にあり、他の地点と同様の水質に近づいています。</p> <p>※1. 環境基準値とは、人の健康を保護し、生活環境を保全する上で維持されることが望ましい基準で、国が設定します。</p> <p>※2. BOD とは、生物化学的酸素要求量のことをさします。これは水中の有機物などを微生物が分解するときに消費する酸素量のこと、河川や工場排水の汚濁の程度を表す指標として用いられ、その値が大きいくほど水質汚濁が進行していることとなります。一般的に、水質の良いものから 12 個 (1 月～12 月) 並べたとき、水質の良い方から 9 番目の値 (75%値) で評価します。</p>	<p>(2) 水質に関する現状と課題</p> <p>五ヶ瀬川の水質を河川汚濁の一般的な指標である BOD (75%値)<sup>注 1)</sup> でみると、水質汚濁に係る環境基準<sup>注 2)</sup> が河川 A 類型に指定されている亀井橋上流の五ヶ瀬川本川と大瀬川では環境基準を満足する状況が続いており、特に近年は下水道整備と相まって良好な状況になっています。</p> <p>また、亀井橋下流においても環境基準河川 A 類型を指定されており、環境基準を満足する状況が続いています。支川祝子川においては、生活雑排水及び工場排水の影響により環境基準を上回っていましたが、近年では工場排水の浄化等により、BOD (75%値) は改善傾向にあり、平成 11 年以降は環境基準を満足しています。</p> <p>注 1) BOD とは、生物化学的酸素要求量のことをさします。これは水中の有機物などを微生物が分解するときに消費する酸素量のこと、河川や工場排水の汚濁の程度を表す指標として用いられ、その値が大きいくほど水質汚濁が進行していることとなります。一般的に、水質の良いものから 12 個 (1 月～12 月) 並べたとき、水質の良い方から 9 番目の値 (75%値) で評価します。</p> <p>注 2) 環境基準値とは、人の健康を保護し、生活環境を保全する上で維持されることが望ましい基準のことです。</p> <p>表 2-2-8 水質環境基準類型指定状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>水域の範囲</th> <th>類型</th> <th>達成期間</th> <th>環境基準地点</th> <th>指定年月日</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>五ヶ瀬川上流 (亀井橋より上流)</td> <td>A</td> <td>イ</td> <td>三輪・松山橋</td> <td>昭和 52 年 2 月 25 日</td> <td>宮崎県</td> </tr> <tr> <td>五ヶ瀬川下流 (亀井より下流)</td> <td>A</td> <td>イ</td> <td></td> <td>平成 16 年 4 月 1 日</td> <td>*</td> </tr> <tr> <td>大瀬川上流 (大瀬橋より上流)</td> <td>A</td> <td>イ</td> <td>大瀬橋</td> <td>昭和 52 年 2 月 25 日</td> <td>宮崎県</td> </tr> <tr> <td>祝子川下流 (五ヶ瀬川合流点より上流栗野名取まで)</td> <td>A</td> <td>イ</td> <td>中州合流点</td> <td>平成 16 年 4 月 1 日</td> <td>*</td> </tr> <tr> <td>大瀬川下流 (大瀬橋より下流)</td> <td>A</td> <td>イ</td> <td>浜 砂</td> <td>平成 16 年 4 月 1 日</td> <td></td> </tr> <tr> <td>祝子川上流 (桑平橋より上流、祝子川に流入する松山谷川等の河川を含む)</td> <td>AA</td> <td>イ</td> <td>桑平橋</td> <td>昭和 58 年 6 月 1 日</td> <td>宮崎県</td> </tr> <tr> <td>北川 (川島橋より上流に流入する小川、大内谷川等の河川を含む)</td> <td>A</td> <td>イ</td> <td>白 石</td> <td>平成 16 年 4 月 1 日</td> <td>環境庁</td> </tr> <tr> <td>岩戸川 (岩戸川に流入する上呂久等の河川を含む)</td> <td>AA</td> <td>イ</td> <td></td> <td>昭和 52 年 2 月 25 日</td> <td>宮崎県</td> </tr> <tr> <td>三ヶ瀬川 (五ヶ瀬川合流点まで、三ヶ瀬川に流入する小谷川等の河川を含む)</td> <td>A</td> <td>イ</td> <td></td> <td>平成 4 年 4 月 1 日</td> <td>宮崎県</td> </tr> <tr> <td>綱ノ瀬川 (五ヶ瀬川合流点まで、綱ノ瀬川に流入する窪の内谷川等の河川を含む)</td> <td>AA</td> <td>イ</td> <td></td> <td>*</td> <td>*</td> </tr> <tr> <td>曾木川 (五ヶ瀬川合流点まで、曾木川に流入する大保下川等の河川を含む)</td> <td>AA</td> <td>イ</td> <td></td> <td>*</td> <td>*</td> </tr> <tr> <td>瀬見川 (瀬見川に流入する西の小谷川等の河川を含む)</td> <td>AA</td> <td>イ</td> <td></td> <td>平成 5 年 4 月 1 日</td> <td></td> </tr> <tr> <td>日之影川 (日之影川に流入する河川を含む)</td> <td>AA</td> <td>イ</td> <td></td> <td>平成 7 年 4 月 1 日</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) AA : BOD 濃度 1mg/ℓ 以下      イ : 直ちに達成  A : BOD 濃度 2mg/ℓ 以下      ロ : 5 年以内で可及的速やかに達成  B : BOD 濃度 3mg/ℓ 以下</p>	水域の範囲	類型	達成期間	環境基準地点	指定年月日	備考	五ヶ瀬川上流 (亀井橋より上流)	A	イ	三輪・松山橋	昭和 52 年 2 月 25 日	宮崎県	五ヶ瀬川下流 (亀井より下流)	A	イ		平成 16 年 4 月 1 日	*	大瀬川上流 (大瀬橋より上流)	A	イ	大瀬橋	昭和 52 年 2 月 25 日	宮崎県	祝子川下流 (五ヶ瀬川合流点より上流栗野名取まで)	A	イ	中州合流点	平成 16 年 4 月 1 日	*	大瀬川下流 (大瀬橋より下流)	A	イ	浜 砂	平成 16 年 4 月 1 日		祝子川上流 (桑平橋より上流、祝子川に流入する松山谷川等の河川を含む)	AA	イ	桑平橋	昭和 58 年 6 月 1 日	宮崎県	北川 (川島橋より上流に流入する小川、大内谷川等の河川を含む)	A	イ	白 石	平成 16 年 4 月 1 日	環境庁	岩戸川 (岩戸川に流入する上呂久等の河川を含む)	AA	イ		昭和 52 年 2 月 25 日	宮崎県	三ヶ瀬川 (五ヶ瀬川合流点まで、三ヶ瀬川に流入する小谷川等の河川を含む)	A	イ		平成 4 年 4 月 1 日	宮崎県	綱ノ瀬川 (五ヶ瀬川合流点まで、綱ノ瀬川に流入する窪の内谷川等の河川を含む)	AA	イ		*	*	曾木川 (五ヶ瀬川合流点まで、曾木川に流入する大保下川等の河川を含む)	AA	イ		*	*	瀬見川 (瀬見川に流入する西の小谷川等の河川を含む)	AA	イ		平成 5 年 4 月 1 日		日之影川 (日之影川に流入する河川を含む)	AA	イ		平成 7 年 4 月 1 日	
水域の範囲	類型	達成期間	環境基準地点	指定年月日	備考																																																																																	
五ヶ瀬川上流 (亀井橋より上流)	A	イ	三輪・松山橋	昭和 52 年 2 月 25 日	宮崎県																																																																																	
五ヶ瀬川下流 (亀井より下流)	A	イ		平成 16 年 4 月 1 日	*																																																																																	
大瀬川上流 (大瀬橋より上流)	A	イ	大瀬橋	昭和 52 年 2 月 25 日	宮崎県																																																																																	
祝子川下流 (五ヶ瀬川合流点より上流栗野名取まで)	A	イ	中州合流点	平成 16 年 4 月 1 日	*																																																																																	
大瀬川下流 (大瀬橋より下流)	A	イ	浜 砂	平成 16 年 4 月 1 日																																																																																		
祝子川上流 (桑平橋より上流、祝子川に流入する松山谷川等の河川を含む)	AA	イ	桑平橋	昭和 58 年 6 月 1 日	宮崎県																																																																																	
北川 (川島橋より上流に流入する小川、大内谷川等の河川を含む)	A	イ	白 石	平成 16 年 4 月 1 日	環境庁																																																																																	
岩戸川 (岩戸川に流入する上呂久等の河川を含む)	AA	イ		昭和 52 年 2 月 25 日	宮崎県																																																																																	
三ヶ瀬川 (五ヶ瀬川合流点まで、三ヶ瀬川に流入する小谷川等の河川を含む)	A	イ		平成 4 年 4 月 1 日	宮崎県																																																																																	
綱ノ瀬川 (五ヶ瀬川合流点まで、綱ノ瀬川に流入する窪の内谷川等の河川を含む)	AA	イ		*	*																																																																																	
曾木川 (五ヶ瀬川合流点まで、曾木川に流入する大保下川等の河川を含む)	AA	イ		*	*																																																																																	
瀬見川 (瀬見川に流入する西の小谷川等の河川を含む)	AA	イ		平成 5 年 4 月 1 日																																																																																		
日之影川 (日之影川に流入する河川を含む)	AA	イ		平成 7 年 4 月 1 日																																																																																		

五ヶ瀬川水系河川整備計画（原案）と五ヶ瀬川水系河川整備計画（案）との対比表

意見	対応
	意見はありませんでしたが、単純記載ミスを修正します。

頁	五ヶ瀬川水系河川整備計画（原案）	五ヶ瀬川水系河川整備計画（案）
---	------------------	-----------------

P34 表2-2-8 水質環境基準類型指定状況

水域の範囲	類型値	達成期間	環境基準地点	指定年月日	備考
五ヶ瀬川上流（亀井橋より上流）	A	イ	松山橋	昭和52年2月25日	宮崎県
五ヶ瀬川下流（亀井より下流）	A	イ		平成16年4月1日	"
大瀬川上流（大瀬橋より上流）	A	イ	大瀬橋	昭和52年2月25日	宮崎県
祝子川下流（五ヶ瀬川合流点より上流栗野名取まで）	A	イ	中洲合流点	平成16年4月1日	"
大瀬川下流（大瀬橋より下流）	A	イ		平成16年4月1日	
祝子川上流（桑平橋より上流、祝子川に流入する松山谷川等の河川を含む）	AA	イ	桑平橋	昭和58年6月1日	宮崎県
北川（川島橋より上流に流入する小川、大内谷川等の河川を含む）	A	イ	白石	平成16年4月1日	環境庁
岩戸川（岩戸川に流入する土呂久等の、河川を含む）	AA	イ		昭和52年2月25日	宮崎県
三ヶ所川（五ヶ瀬川合流点まで、三ヶ所に流入する小谷川等の河川を含む）	A	イ		平成4年4月1日	宮崎県
綱ノ瀬川（五ヶ瀬川合流点まで、綱ノ瀬川に流入する猪の内谷川等の河川を含む）	AA	イ		"	"
曾木川（五ヶ瀬川合流点まで、曾木川に流入する大保下川等の河川を含む）	AA	イ		"	"
細見川（細見川に流入する西の小谷川等の河川を含む）	AA	イ		平成5年4月1日	
日之影川（日之影川に流入する河川を含む）	AA	イ		平成7年4月1日	

注) AA : BOD濃度 1mg/l以下   イ : 直ちに達成  
 A : BOD濃度 2mg/l以下   ロ : 5年以内で可及的速やかに達成  
 B : BOD濃度 3mg/l以下



図2-2-4 五ヶ瀬川水質観測地点と類型指定

水域の範囲	類型値	達成期間	環境基準地点	指定年月日	備考
五ヶ瀬川上流（亀井橋より上流）	A	イ	松山橋	昭和52年2月25日	宮崎県
五ヶ瀬川下流（亀井より下流）	A	イ		平成16年4月1日	"
大瀬川上流（大瀬橋より上流）	A	イ	大瀬橋	昭和52年2月25日	宮崎県
祝子川下流（五ヶ瀬川合流点より上流栗野名取まで）	A	イ	中洲合流点	平成16年4月1日	"
大瀬川下流（大瀬橋より下流）	A	イ		平成16年4月1日	
祝子川上流（桑平橋より上流、祝子川に流入する松山谷川等の河川を含む）	AA	イ	桑平橋	昭和58年6月1日	宮崎県
北川（川島橋より上流に流入する小川、大内谷川等の河川を含む）	A	イ	白石	平成16年4月1日	環境庁
岩戸川（岩戸川に流入する土呂久等の、河川を含む）	AA	イ		昭和52年2月25日	宮崎県
三ヶ所川（五ヶ瀬川合流点まで、三ヶ所に流入する小谷川等の河川を含む）	A	イ		平成4年4月1日	宮崎県
綱ノ瀬川（五ヶ瀬川合流点まで、綱ノ瀬川に流入する猪の内谷川等の河川を含む）	AA	イ		"	"
曾木川（五ヶ瀬川合流点まで、曾木川に流入する大保下川等の河川を含む）	AA	イ		"	"
細見川（細見川に流入する西の小谷川等の河川を含む）	AA	イ		平成5年4月1日	
日之影川（日之影川に流入する河川を含む）	AA	イ		平成7年4月1日	

注) AA : BOD濃度 1mg/l以下   イ : 直ちに達成  
 A : BOD濃度 2mg/l以下   ロ : 5年以内で可及的速やかに達成  
 B : BOD濃度 3mg/l以下



図2-2-4 五ヶ瀬川水質観測地点と類型指定

五ヶ瀬川水系河川整備計画（原案）と五ヶ瀬川水系河川整備計画（案）との対比表

意見	対応
<p>基本理念については、「アユ」という言葉を残した方がいいという意見もあるが削除する意見が多い。委員会としては「アユおどり神話いきづく」を削除し、「流域の多様でより豊かな自然環境と個性ある風土・歴史・文化を未来に継承し、より安全・安心な五ヶ瀬川流域」と記載していただきたい。</p>	<p>基本理念は整備計画全体の方向性を示す考え方を表現するため、「アユ」という固有名詞は基本理念に対し具体的過ぎることから削除し、上流域の森、林を含んだ表現するため、計画案 P37 を「<b>流域の多様</b>でより豊かな自然環境と個性ある風土・歴史・文化を未来に継承し、より安全・安心な五ヶ瀬川」と見直しました。具体的な考え方については計画案 P37 に4つの柱として記載しています。</p>
<p>国土交通省がやるべき部分を明確にした上で住民自ら減災を図るという内容にすべき。例えば「洪水や津波等から生命・財産を守り被害を防止する、安全で安心できる川づくりを推進するとともに、流域住民みずからが災害に強い地域づくりを推進します」としてはどうか。</p>	<p>近年の集中豪雨を踏まえソフト対策を追加し、計画案 P37 を「洪水や津波等から生命・財産を守り、被害を<b>防止するとともに、流域住による災害に強い地域づくりを支援し</b>、安全で安心できる川づくりを目指します。」と見直しました。</p>

頁	五ヶ瀬川水系河川整備計画（原案）	五ヶ瀬川水系河川整備計画（案）
<p>P36</p>	<p>3. 河川整備計画の目標に関する事項</p> <p>3.1 河川整備の基本理念</p> <p>『「アユおどり 神話いきづく」多様でより豊かな自然環境と流域の個性ある風土・歴史・文化を未来に継承し、より安全・安心な五ヶ瀬川流域』を河川整備の基本理念とします。</p> <p>この基本理念を踏まえ、次の4つの柱を基に、今後の五ヶ瀬川の川づくりを地域住民や関係機関との連携を図りながら進めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 安心・安全な川づくり                     <p>洪水や津波等から生命・財産を守り、被害を軽減する安全で安心できる川づくりを目指します。</p> </li> <li>○ 清浄な水質を守り育む川づくり                     <p>流域の関係機関や地域住民さらには市民団体等との連携のもと、流水の清潔に努めるとともに適正な流量を保全・育む川づくりを目指します。</p> </li> <li>○ 多様で豊かな自然環境と人々の生活に優しい川づくり                     <p>地域に引き継がれてきた個性ある風土・歴史・文化を未来に継承し、多様で豊かな自然環境に配慮しつつ、自然環境や人々の生活に優しく潤いある川づくりを目指します。</p> </li> <li>○ 川と人との関係や新たな出会いに配慮した川づくり                     <p>従来からの川と人との関係を守り育みつつ、多様で個性ある河川環境から学ぶ環境学習やレクリエーションさらには地域交流や地域づくりの場として、魅力ある川づくりを目指します。</p> </li> </ul>	<p>3. 河川整備計画の目標に関する事項</p> <p>3.1 河川整備の基本理念</p> <p>整備の基本理念</p> <p>『<b>流域の多様</b>でより豊かな自然環境と個性ある風土・歴史・文化を未来に継承し、より安全・安心な五ヶ瀬川』を河川整備の基本理念とします。</p> <p>この基本理念を踏まえ、次の4つの柱を基に、今後の五ヶ瀬川の川づくりを地域住民や関係機関との連携を図りながら進めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 安心・安全な川づくり                     <p>洪水や津波等から生命・財産を守り、被害を防止するとともに、<b>流域住民による災害に強い地域づくりを支援し</b>、安全で安心できる川づくりを目指します。</p> </li> <li>○ 清浄な水質を守り育む川づくり                     <p>流域の関係機関や地域住民さらには市民団体等との連携のもと、<b>豊かな森林からアユもいきづく清浄な水を集め</b>、流水の清潔に努めるとともに適正な流量を保全・育む川づくりを目指します。</p> </li> <li>○ 多様で豊かな自然環境と人々の生活に優しい川づくり                     <p>地域に引き継がれてきた個性ある風土・歴史・文化を未来に継承し、多様で豊かな自然環境を<b>保全及び再生させることにより</b>、自然環境や人々の生活に優しく潤いある川づくりを目指します。</p> </li> <li>○ 川と人との関係や新たな出会いに配慮した川づくり                     <p>従来からの川と人との関係を守り育む川との共生にむけ、多様で個性ある河川環境から学ぶ環境学習やレクリエーションさらには地域交流や地域づくりの場として、魅力ある川づくりを目指します。</p> </li> </ul>

五ヶ瀬川水系河川整備計画（原案）と五ヶ瀬川水系河川整備計画（案）との対比表

意見	対応
<p>森林の大切さについては、2つ目の柱である「清浄な水質を守り育む川づくり」の中で市民運動を誘発するような表現で記載していただきたい。</p>	<p>森林の重要性や五ヶ瀬川の特徴であるアユをふまえ、計画案 P37 を「流域の関係機関や地域住民さらには市民団体等との連携のもと、<b>豊かな森林からアユもいきづく清浄な水を集め、</b>流水の清潔に努めるとともに適正な流量を保全・育む川づくりを目指します。」と見直しました。</p>
<p>アユについては基本理念ではなく2つ目の柱である「清浄な水質を守り育む川づくり」の中で「アユが生活するきれいな水」というイメージの文章にしてはどうか。</p>	
<p>2つ目の柱は「水質」が強調されていて「水量」の話が弱い</p>	
<p>基本理念の3つ目の柱である「多様で豊かな自然環境と人々の生活に優しい川づくり」の中に「自然環境に配慮しつつ」とあるが、「配慮しつつ」というのがファジー（曖昧）な感じがする。「自然環境を保全及び再生させることにより」と記載してはどうか</p>	<p>自然環境への対応を明確にするため計画案 P37 を「地域に引き継がれてきた個性ある風土・歴史・文化を未来に継承し、多様で豊かな自然環境を<b>保全および再生させることにより、</b>自然環境や人々の生活に優しく潤いある川づくりを目指します。」と見直しました。</p>
<p>4つ目の柱である「川と人との関係や新たな出会いに配慮した川づくり」に「川との共生」を入れてもらいたい。又、「共生」を説明する言葉も入れてもらいたい。</p>	<p>4つ目の柱は「川との共生」の項目であり、計画案P37を「従来からの川と人との関係を守り育む<b>川との共生にむけ、</b>多様で個性ある河川環境から学ぶ環境学習やレクリエーションさらには地域交流や地域づくりの場として、魅力ある川づくりを目指します。」と見直しました。</p>

頁	五ヶ瀬川水系河川整備計画（原案）	五ヶ瀬川水系河川整備計画（案）
<p>P36</p>	<p>3. 河川整備計画の目標に関する事項</p> <p>3.1 河川整備の基本理念</p> <p>『「アユおどり 神話いきづく」多様でより豊かな自然環境と流域の個性ある風土・歴史・文化を未来に継承し、より安全・安心な五ヶ瀬川流域』を河川整備の基本理念とします。</p> <p>この基本理念を踏まえ、次の4つの柱を基に、今後の五ヶ瀬川の川づくりを地域住民や関係機関との連携を図りながら進めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 安心・安全な川づくり                     <p>洪水や津波等から生命・財産を守り、被害を軽減する安全で安心できる川づくりを目指します。</p> </li> <li>○ 清浄な水質を守り育む川づくり                     <p>流域の関係機関や地域住民さらには市民団体等との連携のもと、流水の清潔に努めるとともに適正な流量を保全・育む川づくりを目指します。</p> </li> <li>○ 多様で豊かな自然環境と人々の生活に優しい川づくり                     <p>地域に引き継がれてきた個性ある風土・歴史・文化を未来に継承し、多様で豊かな自然環境に配慮しつつ、自然環境や人々の生活に優しく潤いある川づくりを目指します。</p> </li> <li>○ 川と人との関係や新たな出会いに配慮した川づくり                     <p>従来からの川と人との関係を守り育みつつ、多様で個性ある河川環境から学ぶ環境学習やレクリエーションさらには地域交流や地域づくりの場として、魅力ある川づくりを目指します。</p> </li> </ul>	<p>3. 河川整備計画の目標に関する事項</p> <p>3.1 河川整備の基本理念</p> <p>整備の基本理念</p> <p>『流域の多様でより豊かな自然環境と個性ある風土・歴史・文化を未来に継承し、より安全・安心な五ヶ瀬川』を河川整備の基本理念とします。</p> <p>この基本理念を踏まえ、次の4つの柱を基に、今後の五ヶ瀬川の川づくりを地域住民や関係機関との連携を図りながら進めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 安心・安全な川づくり                     <p>洪水や津波等から生命・財産を守り、被害を防止するとともに、<b>流域住民による災害に強い地域づくり</b>を支援し、安全で安心できる川づくりを目指します。</p> </li> <li>○ 清浄な水質を守り育む川づくり                     <p>流域の関係機関や地域住民さらには市民団体等との連携のもと、<b>豊かな森林からアユもいきづく清浄な水</b>を集め、流水の清潔に努めるとともに適正な流量を保全・育む川づくりを目指します。</p> </li> <li>○ 多様で豊かな自然環境と人々の生活に優しい川づくり                     <p>地域に引き継がれてきた個性ある風土・歴史・文化を未来に継承し、多様で豊かな自然環境を<b>保全及び再生させることにより、</b>自然環境や人々の生活に優しく潤いある川づくりを目指します。</p> </li> <li>○ 川と人との関係や新たな出会いに配慮した川づくり                     <p>従来からの川と人との関係を守り育む<b>川との共生にむけ、</b>多様で個性ある河川環境から学ぶ環境学習やレクリエーションさらには地域交流や地域づくりの場として、魅力ある川づくりを目指します。</p> </li> </ul>

五ヶ瀬川水系河川整備計画（原案）と五ヶ瀬川水系河川整備計画（案）との対比表

意見	対応
<p>全体的に「防災（ハード）」と「減災（ソフト）」の2本柱で構成していただきたい。</p> <p>「洪水・地震・津波等による災害の発生の防止または軽減に関する目標」の洪水対策では減災対策について書き足すことが必要ではないか。</p>	<p>近年の集中豪雨を踏まえソフト対策を追加し計画案 P39 に「また、関係機関と連携のもと、ソフト的な対策を進めることで、総合的な被災軽減を図ります。」と記載しました。</p>

頁	五ヶ瀬川水系河川整備計画（原案）	五ヶ瀬川水系河川整備計画（案）
<p>P38</p>	<p><b>3.3 河川整備計画の対象期間</b></p> <p>本整備計画は概ね30年で実施することを目標としています。</p> <p>なお、本計画は、現時点の流域の社会経済情勢・自然環境状況・河道状況等に基づき策定されたものであり、策定後のこれらの状況の変化や新たな知見・技術の進歩、災害等の変化により、必要に応じて適宜計画の見直しを行います。</p> <p><b>3.4 洪水・地震・津波等による災害の発生の防止または軽減に関する目標</b></p> <p><b>3.4.1 洪水対策</b></p> <p>本計画における災害の発生の防止または軽減に関する目標は、五ヶ瀬川本川並びに大瀬川においては平成5年8月洪水、支川北川・祝子川においては平成9年9月洪水に対応することとします。これにより、五ヶ瀬川本川については、平成5年8月洪水と同規模の流量である6,500m<sup>3</sup>/s(三輪地点)とし、大瀬川分派点においては、現状の流下能力及び自然・社会環境への影響を踏まえ、大瀬川に4,400m<sup>3</sup>/s分派、五ヶ瀬川に2,100m<sup>3</sup>/sとします。また、支川北川・祝子川については、平成9年9月洪水と同規模の流量に対応することとし、北川は5,000m<sup>3</sup>/s、祝子川は1,250m<sup>3</sup>/sとします。</p> <p>さらに、既設の堤防については、洪水に対する所要の安全性を確保することとします。</p> <p>なお、内水被害が発生する区域においては、土地利用状況、内水被害状況を踏まえ、地域との連携のもと、被害の軽減を図るべく内水対策に努めます。</p>	<p><b>3.3 河川整備計画の対象期間</b></p> <p>本整備計画は概ね30年で実施することを目標としています。</p> <p>なお、本計画は、現時点の流域の社会経済情勢・自然環境状況・河道状況等に基づき策定されたものであり、策定後のこれらの状況の変化や新たな知見・技術の進歩、災害等の変化により、必要に応じて適宜計画の見直しを行います。</p> <p><b>3.4 洪水・地震・津波等による災害の発生の防止または軽減に関する目標</b></p> <p><b>3.4.1 洪水対策</b></p> <p>本計画における災害の発生の防止または軽減に関する目標は、五ヶ瀬川本川並びに大瀬川においては平成5年8月洪水、支川北川・祝子川においては平成9年9月洪水に対応することとします。これにより、五ヶ瀬川本川については、平成5年8月洪水と同規模の流量である6,500m<sup>3</sup>/s(三輪地点)とし、大瀬川分派点においては、現状の流下能力及び自然・社会環境への影響を踏まえ、大瀬川に4,400m<sup>3</sup>/s分派、五ヶ瀬川に2,100m<sup>3</sup>/sとします。また、支川北川・祝子川については、平成9年9月洪水と同規模の流量に対応することとし、北川は5,000m<sup>3</sup>/s、祝子川は1,250m<sup>3</sup>/sとします。</p> <p>さらに、既設の堤防については、洪水に対する所要の安全性を確保することとします。</p> <p>なお、内水被害が発生する区域においては、土地利用状況、内水被害状況を踏まえ、地域との連携のもと、被害の軽減を図るべく内水対策に努めます。</p> <p>また、関係機関と連携のもと、ソフト的な対策を進めることで、総合的な被災軽減を図ります。</p>

五ヶ瀬川水系河川整備計画（原案）と五ヶ瀬川水系河川整備計画（案）との対比表


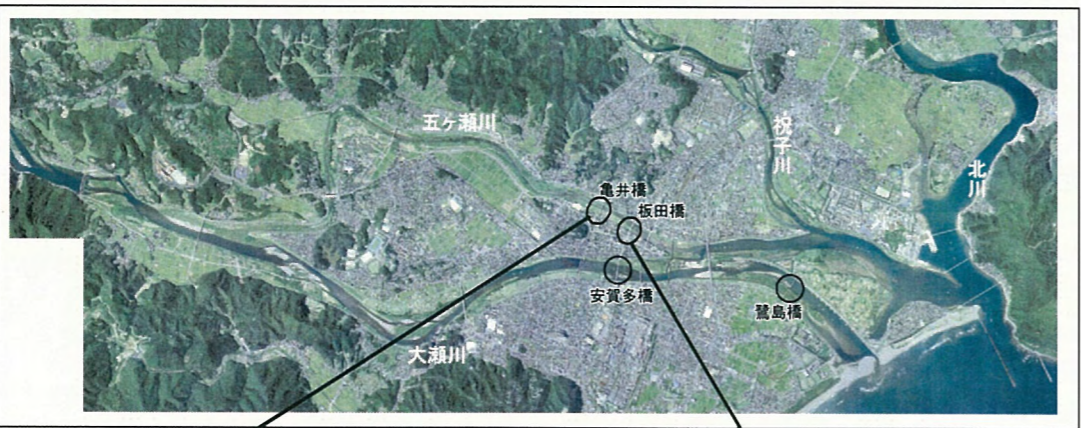



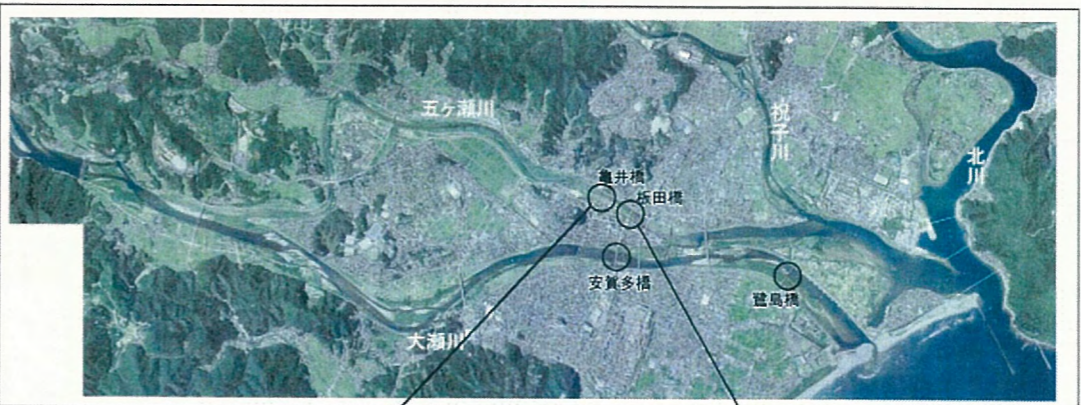

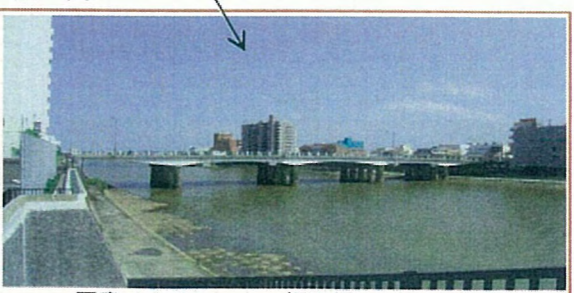
意見	対応
<p>内水対策が記載されている事、ソフト対策を追加する事から「河道整備流量に対して甚大な被害を防止する対策としては、以下のような対策を行います。」又「計画規模を超える大規模な洪水の発生については以下のような方法、ソフト対策で災害の軽減を図ります。」としてはどうか。</p>	<p>内水対策が記載されていること、ソフト対策を追加することから計画案 P45 を「河川整備計画の目標に対し甚大な被害を防止する対策としては、以下のような河川改修を効率的・効果的に進めていきます。また、河川整備計画の目標を超える大規模な洪水や、整備途上段階での洪水の発生に対しても、上記のハード整備と併せて、被害を最小限にするためのソフト対策により被害の軽減を図ります。」と見直しました。</p>
<p>「河川工事の目的、種類及び施行の場所並びに当該河川工事の施行により設置される河川管理施設等の機能の概要」の洪水対策では、減災対策について書き足すことが必要ではないか。また、「防災意識の向上」と「危機管理」の頁目は「河川の維持」ではなく「河川工事の目的、種類及び施行の場所並びに当該河川工事の施行により設置される河川管理施設等の機能の概要」の箇所へ移動すべきではないか</p>	
<p>「みずからまもるプロジェクト」や「浸水対策協議会」についてはソフト対策として洪水対策に入れるべき。</p>	<p>原案 P68 に記載している「防災意識の向上」、原案 P69 に記載している「危機管理」及び原案 P78 に記載している「みずからまもるプロジェクト」は洪水対策のソフト対策に該当するため計画案 P54～56 の実施のページに移行しました。</p>

頁	五ヶ瀬川水系河川整備計画（原案）	五ヶ瀬川水系河川整備計画（案）
<p>P44</p>	<p>4.2 河川工事の目的、種類及び施行の場所並びに当該河川工事の施行により 設置される河川管理施設等の機能の概要</p> <p>4.2.1 洪水、地震・津波対策に関する整備</p> <p>(1) 洪水対策</p> <p>河道整備流量に対し破堤等による甚大な被害を防止する対策としては、以下のような河川改修を効率的・効果的に進めていきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①河道掘削及び築堤工事</li> <li>②河口処理対策</li> <li>③五ヶ瀬川・大瀬川分離対策</li> <li>④五ヶ瀬川・大瀬川分派対策</li> <li>⑤橋梁の改築</li> <li>⑥堤防強化対策</li> <li>⑦内水対策</li> </ul>	<p>4.2 河川工事の目的、種類及び施行の場所並びに当該河川工事の施行により 設置される河川管理施設等の機能の概要</p> <p>4.2.1 洪水、地震・津波対策に関する整備</p> <p>(1) 洪水対策</p> <p>河川整備計画の目標に対し甚大な被害を防止する対策としては、以下のような河川改修を効率的・効果的に進めていきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①河道掘削及び築堤工事</li> <li>②河口処理対策</li> <li>③五ヶ瀬川・大瀬川分離対策</li> <li>④五ヶ瀬川・大瀬川分派対策</li> <li>⑤橋梁の改築</li> <li>⑥堤防強化対策</li> <li>⑦内水対策</li> </ul> <p>また、河川整備計画の目標を超える大規模な洪水や、整備途上段階での洪水の発生に対しても、上記のハード整備と併せて、被害を最小限にするためのソフト対策により被害の軽減を図ります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>⑧防災意識の向上</li> <li>⑨危機管理</li> </ul>





五ヶ瀬川水系河川整備計画（原案）と五ヶ瀬川水系河川整備計画（案）との対比表

意見	対応
「アユ等生態系への影響」というのは違和感がある為、「アユを含めた生態系への影響」と記載してはどうか。	わかりやすい表現にするため計画案 P53 を「アユを含めた生態系への影響」と見直しました。
亀井橋と板田橋の写真は、現在掘削実施中の所であり、現状と異なる為、写真を差し替えるべき。	計画案 P53 の写真を最新のものに差し替えました。

頁	五ヶ瀬川水系河川整備計画（原案）	五ヶ瀬川水系河川整備計画（案）
P52	<p>② 五ヶ瀬川・大瀬川分派対策</p> <p>五ヶ瀬川と大瀬川との分派点において、洪水を適切に分流できるよう、分流施設により洪水を安全に分派させます。</p> <p>実施にあたっては、分派後のアユ等生態系への影響を考慮し、平常時の流量にも配慮して実施します。</p>  <p>図 4-2-6 位置平面図</p> <p>③ 橋梁の改築等</p> <p>五ヶ瀬川は、延岡市街部を貫流しているため橋梁が多く桁下高不足等により改築等が必要な橋梁（板田橋、亀井橋、鷺島橋、安賀多橋）があります。これらの橋梁の改築等については関係機関と連携・調整しながら進めていきます。</p>  <p>図 4-2-7 位置平面図</p>  <p>写真 4-2-1 亀井橋</p>  <p>写真 4-2-2 板田橋</p>	<p>④ 五ヶ瀬川・大瀬川分派対策</p> <p>五ヶ瀬川と大瀬川との分派点において、洪水を適切に分流できるよう、分流施設により洪水を安全に分派させます。</p> <p>実施にあたっては、分派後のアユを含めた生態系への影響を考慮し、平常時の流量にも配慮して実施します。</p>  <p>図 4-2-6 位置図</p> <p>⑤ 橋梁の改築等</p> <p>五ヶ瀬川は、延岡市街部を貫流しているため橋梁が多く桁下高不足等により改築等が必要な橋梁（板田橋、亀井橋、鷺島橋、安賀多橋）があります。これらの橋梁の改築等については関係機関と連携・調整しながら進めていきます。</p>  <p>図 4-2-7 位置図</p>  <p>写真 4-2-1 亀井橋</p>  <p>写真 4-2-2 板田橋</p>

五ヶ瀬川水系河川整備計画（原案）と五ヶ瀬川水系河川整備計画（案）との対比表

意見	対応
	原案 P68 に記載している「防災意識の向上」、原案 P69 に記載している「危機管理」及び原案 P78 に記載している「みずからまもるプロジェクト」は洪水対策のソフト対策に該当するため計画案 P54～56 の実施のページに移行しました。

頁	五ヶ瀬川水系河川整備計画（原案）	五ヶ瀬川水系河川整備計画（案）
P-	<p>② 堤防強化対策</p> <p>堤防の安全性を確認するため、堤防の詳細点検を実施し、堤防強化対策が必要な箇所については、対策を実施します。</p> <p>③ 内水対策</p> <p>床上浸水が発生する等の内水による大きな浸水被害の発生や予想される地域において地域との連携のもと内水対策を実施します。ただし、その実施については被害実績や浸水特性、土地利用状況等を十分勘案し、関係機関と連携・調整して必要な措置を図るとともに、内水対策により下流の被害を増加させないものとします。</p> <p>(2) 地震・津波対策</p> <p>地震・津波対策については、発生が危惧される東南海・南海地震等の大規模地震による堤防等河川管理施設の安全性を検証したうえで、必要な対策を実施するとともに、津波による被害を防止するため、水門や樋管等の操作体制の確立や、必要な対策を図るなど、被災の防止・軽減を図ります。</p> <p>また、関係機関との連携の強化や情報の共有化、津波ハザードマップの作成支援等、ソフト的な対策を進めることで、総合的な被災軽減を図ります。</p>	<p>⑥ 堤防強化対策</p> <p>堤防の安全性を確認するため、堤防の詳細点検を実施し、堤防強化対策が必要な箇所については、対策を実施します。</p> <p>⑦ 内水対策</p> <p>床上浸水が発生する等の内水による大きな浸水被害の発生や予想される地域において地域との連携のもと内水対策を実施します。ただし、その実施については被害実績や浸水特性、土地利用状況等を十分勘案し、関係機関と連携・調整して必要な措置を図るとともに、内水対策により下流の被害を増加させないものとします。</p> <p>⑧ 防災意識の向上</p> <p>整備途上における地域住民の安全を確保するためには、河川管理者及び関係機関の防災体制の整備による被害の防止、軽減を図る必要があり、これには関係機関の協力が不可欠です。</p> <p>このため、平常時から水防活動に万全を期すために、関係機関で組織する「五ヶ瀬川水防連絡会」や出水期前の合同巡視、情報伝達訓練、防災訓練等を行います。</p> <p>また、迅速かつ的確な水防活動が実施できるよう、堤防の整備状況等を記載した水防情報図の公表や、洪水時の破堤等による氾濫区域と避難方法等を掲載した延岡市作成のハザードマップ等により、水防団をはじめ地域住民に対し、危険箇所を周知し、防災意識の向上を図ります。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="1638 1499 2125 1864">  </div> <div data-bbox="2160 1499 2647 1864">  </div> </div> <p>写真 4-2-3 五ヶ瀬川水防連絡会の開催状況      写真 4-2-4 水防工法の訓練状況</p>

五ヶ瀬川水系河川整備計画（原案）と五ヶ瀬川水系河川整備計画（案）との対比表

意見	対応
	原案 P68 に記載している「防災意識の向上」、原案 P69 に記載している「危機管理」及び原案 P78 に記載している「みずからまもるプロジェクト」は洪水対策のソフト対策に該当するため計画案 P54～56 の実施のページに移行しました。

頁	五ヶ瀬川水系河川整備計画（原案）	五ヶ瀬川水系河川整備計画（案）
P-		<p>⑨ 危機管理</p> <p>計画規模を上回る洪水や整備途上段階で施設能力以上の増水が発生し、氾濫した場合においても、被害を最小限に止めるためには、過去の被災経験や現状を十分に踏まえ、地域住民と関係機関とが相互に連携、協力し、危機管理体制を確立することが重要です。</p> <p>水害を受けないためには、「自助・共助・公助」が連携して機能することが必要不可欠であり、国・県・市からなる災害に強い地域づくりの推進を目的とする『「みずからまもる」プロジェクトチーム』を設立しました。このプロジェクトでは洪水氾濫などにより流域の人々の生命・財産に被害が生じる恐れのある場合には、市町村長の避難勧告または指示、及び地域住民の避難活動等が適切かつ迅速にできるように関係機関や地域住民への災害情報の提供体制の構築・強化や、個人・地域の防災力の向上を進めていきます。その一環として五ヶ瀬川水系では、平成 17 年 9 月出水による浸水被害を踏まえ、平成 17 年 11 月 28 日に国・県・市からなる「五ヶ瀬川水系浸水被害軽減対策協議会」を設置し、関係機関の情報共有化などによる危機管理体制の確立や地域住民と連携した浸水被害軽減対策の促進に努めます。また、地域住民が洪水等に対する知識・意識を高めることを目的とした五ヶ瀬川浸水想定区域図（平成 16 年 12 月 10 日指定・公表）をもとに、洪水時の円滑かつ迅速な避難行動のため、住民にわかりやすい形で各市町村のハザードマップが作成・公表・周知されるよう支援を行います。</p> <div data-bbox="1899 1144 2374 1564"> <p><b>『みずからまもる』プロジェクト</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li><b>自助 自らの安全は自らの力で</b> 自らの手で自分・家族・財産をまもるための備えや行動</li> <li><b>共助 地域の手で助け合う</b> 個人だけでは防ぐことのできない被害に対して、近隣住民と協力しながら被害軽減をはかるなどの「地域としての災害への備え・行為」</li> <li><b>公助 個人・地域の防災力の向上を支援</b> 個人・地域だけでは防ぐことのできない被害に対して、「行政」が支援する防災体制や応急対策活動</li> </ul> </div> <div data-bbox="1632 1585 2018 1869"> <p>五ヶ瀬川水系浸水被害軽減対策協議会</p> </div> <div data-bbox="2047 1585 2656 1911"> <p>危機管理情報共有化システム（イメージ）</p> <p>システム構成要素：ダム（高子ダム、北川ダム、豊山ダム）、水位、雨量、IVカブ、緊急台、警察署、消防署、水防団、国土交通省 延岡河川国道事務所、延岡市役所、宮崎県、民間企業、旭化成、NTT、ガス、電気、マスコミ、一般住民。</p> </div>

五ヶ瀬川水系河川整備計画（原案）と五ヶ瀬川水系河川整備計画（案）との対比表

意見	対応
	原案 P68 に記載している「防災意識の向上」、原案 P69 に記載している「危機管理」及び原案 P78 に記載している「みずからまもるプロジェクト」は洪水対策のソフト対策に該当するため計画案 P54～56 の実施のページに移行しました。

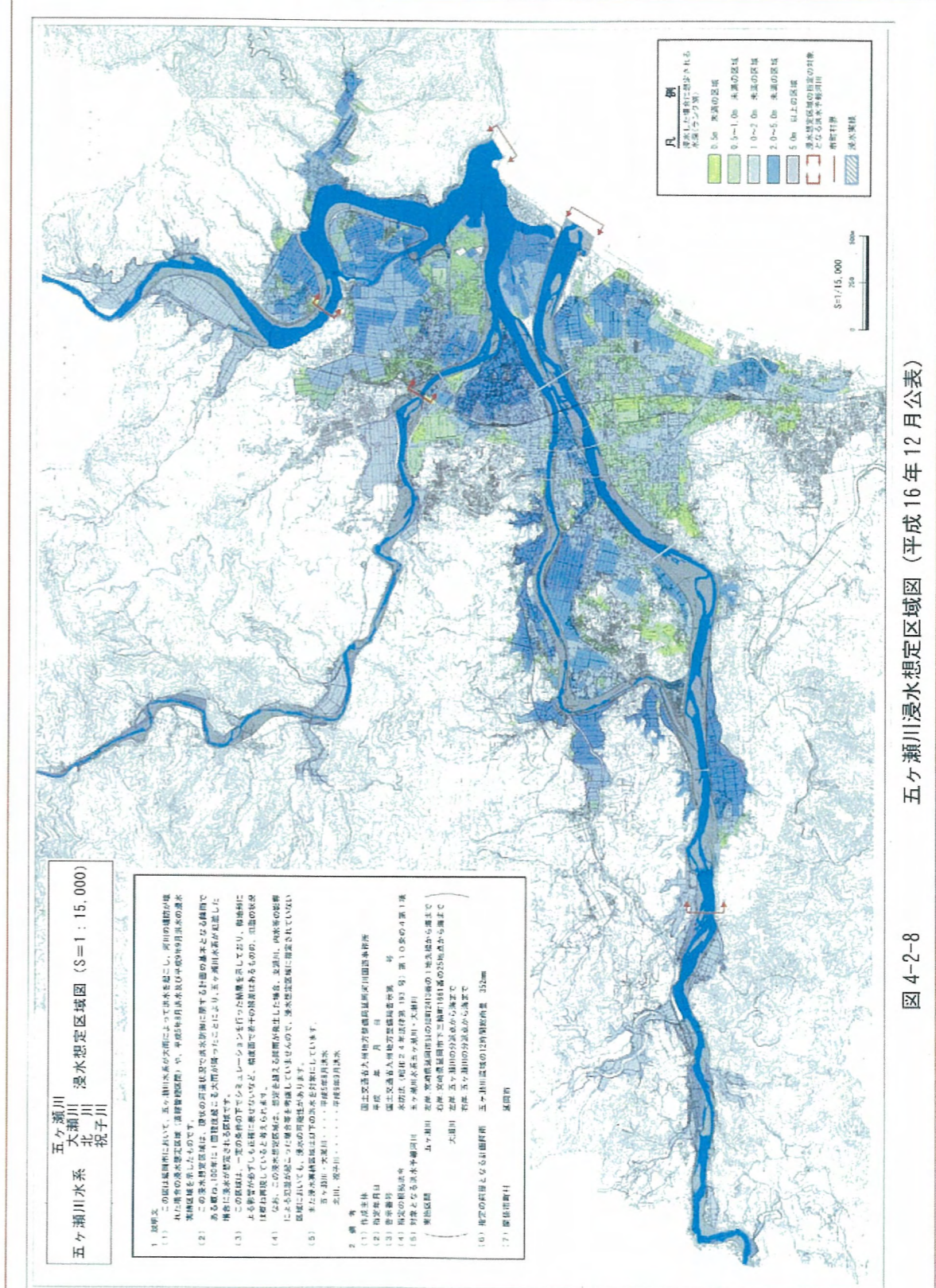
頁	五ヶ瀬川水系河川整備計画（原案）	五ヶ瀬川水系河川整備計画（案）
P-		 <p data-bbox="1632 1428 1736 1911">五ヶ瀬川水系 大瀬川 北祝子川 五ヶ瀬川 浸水想定区域図 (S=1:15,000)</p> <p data-bbox="1751 1428 2211 1911"> <b>1 説明文</b>                  (1) この図は原案において、五ヶ瀬川水系の河川整備計画に基づき、河川整備計画が完了した場合の浸水想定区域（浸水想定区域）を、半都市型洪水（半都市型洪水）の浸水想定区域を示したものである。                  (2) この浸水想定区域は、河川の河川整備計画に基づき、河川整備計画が完了した場合の浸水想定区域を示したものである。この浸水想定区域は、河川の河川整備計画に基づき、河川整備計画が完了した場合の浸水想定区域を示したものである。                  (3) この浸水想定区域は、河川の河川整備計画に基づき、河川整備計画が完了した場合の浸水想定区域を示したものである。この浸水想定区域は、河川の河川整備計画に基づき、河川整備計画が完了した場合の浸水想定区域を示したものである。                  (4) この浸水想定区域は、河川の河川整備計画に基づき、河川整備計画が完了した場合の浸水想定区域を示したものである。この浸水想定区域は、河川の河川整備計画に基づき、河川整備計画が完了した場合の浸水想定区域を示したものである。                  (5) この浸水想定区域は、河川の河川整備計画に基づき、河川整備計画が完了した場合の浸水想定区域を示したものである。この浸水想定区域は、河川の河川整備計画に基づき、河川整備計画が完了した場合の浸水想定区域を示したものである。  <b>2 備考</b>                  (1) 作成主体                  (2) 作成年月日                  (3) 作成場所                  (4) 図面の縮尺                  (5) 対象となる河川                  (6) 対象区域                  (7) 資料提供先             </p>

図 4-2-8 五ヶ瀬川浸水想定区域図（平成 16 年 12 月公表）

五ヶ瀬川水系河川整備計画（原案）と五ヶ瀬川水系河川整備計画（案）との対比表

意見	対応
「堆積土砂対策」については治水対策の意味にも読み取れるため、保全する意味でという形で言葉を入れてはどうか。	保全のための土砂対策であることがわかるように計画案 P61 に「河川環境保全のための堆積土砂対策」と記載しました。

頁	五ヶ瀬川水系河川整備計画（原案）	五ヶ瀬川水系河川整備計画（案）
---	------------------	-----------------

P59

**②友内川における自然環境の保全・再生**

友内川では、平成9年9月洪水対策の一環として水門が設置されたことや流域の宅地化等の影響により貴重な河川環境の変化が懸念され、平成14年度より友内川自然再生事業が進められ、地域住民と一体となった自然再生が実施されており、観察路の整備や河畔林の再生、堆積土砂対策等を実施します。また、平成13年に「水辺の楽校」として登録されていることから、河川学習施設「リバーパル五ヶ瀬川」を核として自然体験や環境学習の場として整備します。

友内川水辺の楽校

友内川水辺の楽校

**③友内川における自然環境の保全・再生**

友内川は、「日本の重要湿地 500 選」に選定されており、多様な動植物が生息し、独特の生態系が形成されていますが、流域の宅地化等の影響により、貴重な河川環境の変化が懸念されたことから、平成14年度より友内川自然再生事業が進められています。今後とも地域住民と一体となった自然再生を進めることとし、観察路の整備や河畔林の再生、河川環境保全のための堆積土砂対策等を検討していきます。また、平成13年には「水辺の楽校」として登録されていることから、河川学習施設「リバーパル五ヶ瀬川」を核とした自然体験や環境学習の場を整備します。

図 4-2-11 友内川水辺の楽校

図 4-2-12 友内川自然再生事業対象範囲

**友内川自然再生**  
「ワズユース」理論を取り入れた自然再生（環境学習を取り入れた総合的自然再生を目指す）

地域住民とのパートナーシップ図

五ヶ瀬川水系河川整備計画（原案）と五ヶ瀬川水系河川整備計画（案）との対比表

意見	対応
<p>「河川工事の目的、種類及び施行の場所並びに当該河川工事の施行により設置される河川管理施設等の機能の概要」の洪水対策では、減災対策について書き足すことが必要ではないか。また、「防災意識の向上」と「危機管理」の項目は「河川の維持」ではなく「河川工事の目的、種類及び施行の場所並びに当該河川工事の施行により設置される河川管理施設等の機能の概要」の箇所へ移動すべきではないか。</p>	<p>原案 P68 に記載している「防災意識の向上」、原案 P69 に記載している「危機管理」及び原案 P78 に記載している「みずからまもるプロジェクト」は洪水対策のソフト対策に該当するため計画案 P54～56 の実施のページに移行しました。</p>

頁	五ヶ瀬川水系河川整備計画（原案）	五ヶ瀬川水系河川整備計画（案）
<p>P-</p>	<p>(5) 防災意識の向上</p> <p>整備途上における地域住民の安全を確保するためには、河川管理者及び関係機関の防災体制の整備による被害の防止、軽減を図る必要があります。これには関係機関の協力が不可欠です。</p> <p>このため、平常時から水防活動に万全を期すために、関係機関で組織する「五ヶ瀬川水防連絡会」や出水期前の合同巡視、情報伝達訓練、防災訓練等を行います。</p> <p>また、迅速かつ的確な水防活動が実施できるよう、堤防の整備状況等を記載した水防情報図の公表や、洪水時の破堤等による氾濫区域と避難方法を掲載した延岡市作成のハザードマップ等により、水防団をはじめ地域住民に対し、危険箇所を周知し、防災意識の向上を図ります。</p> <div data-bbox="569 1035 1080 1419" data-label="Image"> </div> <p data-bbox="557 1423 1080 1455">写真 4-3-4 五ヶ瀬川水防連絡会の開催状況</p> <div data-bbox="569 1507 1080 1879" data-label="Image"> </div> <p data-bbox="557 1883 1080 1915">写真 4-3-5 水防工法の訓練状況</p>	<div data-bbox="1757 1031 2608 1255" data-label="Section-Header" style="border: 1px solid red; padding: 10px; text-align: center;"> <p>4.2.1 洪水、地震、津波に関する整備</p> <p>(1) 洪水対策へ移動</p> </div>

五ヶ瀬川水系河川整備計画（原案）と五ヶ瀬川水系河川整備計画（案）との対比表

意見	対応
<p>「河川工事の目的、種類及び施行の場所並びに当該河川工事の施行により設置される河川管理施設等の機能の概要」の洪水対策では、減災対策について書き足すことが必要ではないか。また、「防災意識の向上」と「危機管理」の項目は「河川の維持」ではなく「河川工事の目的、種類及び施行の場所並びに当該河川工事の施行により設置される河川管理施設等の機能の概要」の箇所へ移動すべきではないか。</p>	<p>原案 P68 に記載している「防災意識の向上」、原案 P69 に記載している「危機管理」及び原案 P78 に記載している「みずからまもるプロジェクト」は洪水対策のソフト対策に該当するため計画案 P54～56 の実施のページに移行しました。</p>

頁	五ヶ瀬川水系河川整備計画（原案）	五ヶ瀬川水系河川整備計画（案）
P-	<p>(6) 危機管理</p> <p>計画規模を上回る洪水や整備途上段階で施設能力以上の出水が発生し、氾濫した場合においても、被害を最小限に止めるためには、過去の被災経験や現状を十分に踏まえ、地域住民と関係機関とが相互に連携、協力し、危機管理体制を確立することが重要です。</p> <p>このため、洪水氾濫などにより流域の人々の生命・財産に被害が生じる恐れのある場合には、市町村長の避難勧告または指示、及び地域住民の避難活動等が適切かつ迅速にできるように関係機関や地域住民へ河川情報の提供を行います。</p> <p>五ヶ瀬川水系は、平成 17 年 9 月出水による浸水被害を踏まえ、平成 17 年 11 月 28 日に国・県・市からなる「五ヶ瀬川水系浸水被害軽減対策協議会」を設置し、関係機関の情報共有化などによる危機管理体制の確立や地域住民と連携した浸水被害軽減対策の促進に努めます。</p> <p>また、地域住民が洪水等に対する知識・意識を高めることを目的とした五ヶ瀬川浸水想定区域図（平成 16 年 12 月 10 日指定・公表）をもとに、洪水時の円滑かつ迅速な避難行動のため、住民にわかりやすい形で各市町村のハザードマップが作成・公表・周知されるよう支援を行います。</p> <div data-bbox="676 1144 1092 1459" data-label="Image"> </div> <p data-bbox="676 1459 1092 1480">五ヶ瀬川水系浸水被害軽減対策協議会</p> <div data-bbox="563 1501 1216 1879" data-label="Diagram"> </div> <p data-bbox="676 1900 1092 1921">危機管理情報共有化システム (イメージ)</p>	<div data-bbox="1751 1092 2611 1323" data-label="Section-Header" style="border: 1px solid red; padding: 10px; text-align: center;"> <p>4.2.1 洪水、地震、津波に関する整備</p> <p>(1) 洪水対策へ移動</p> </div>

五ヶ瀬川水系河川整備計画（原案）と五ヶ瀬川水系河川整備計画（案）との対比表



意見	対応
水防倉庫について記載されているが、防災ステーション構想はないのか、今後 30 年間の整備について記載しているので去年の出水で被害を受けた箇所は重点的な対策を行う必要性を感じる。	防災ステーション構想があり、計画案 P70 の水防倉庫位置図に防災ステーションを記載しました。

頁	五ヶ瀬川水系河川整備計画（原案）	五ヶ瀬川水系河川整備計画（案）
P68	<p>2) 水防活動</p> <p>洪水や高潮などにより災害が発生するおそれがある場合には、河川の危険箇所などの巡視や万一堤防などが危険な状況になった場合の対策の実施などの水防活動が行われるように、自治体を通じて水防団体（消防団）の出動を要請します。</p> <p>また、洪水時の水防活動が円滑に行われるよう、水防資機材などの確保・充実を図ります。</p>  <p>図 4-3-5 水防倉庫位置図</p>	<p>2) 水防活動</p> <p>洪水や高潮などにより災害が発生するおそれがある場合には、河川の危険箇所などの巡視や万一堤防などが危険な状況になった場合の対策の実施などの水防活動が行われるように、自治体を通じて水防団体（消防団）の出動を要請します。</p> <p>また、洪水時の水防活動が円滑に行われるよう、水防資機材などの確保・充実を図ります。</p>  <p>図 4-3-5 水防倉庫・防災ステーション位置図</p>



五ヶ瀬川水系河川整備計画（原案）と五ヶ瀬川水系河川整備計画（案）との対比表

意見	対応
(P41) 「正常流量 11m <sup>3</sup> /s を下回らないように努めます」とあるが具体的な対策が記載されていない。P71 の実施に関する事頁では「上流の自治体・関係機関等と連携を図りながら対応する」と記載すべき。	五ヶ瀬川水系には補給施設がないため具体的な対策は記載出来ませんが、上流の関係機関との連携を追加し、実施のページである計画案 P73 を「河川環境の保全や既得用水の取水の安定化等、流水の正常な機能を維持するため、上流の自治体・関係機関等と連携を図りながら水量・水質の監視を行うとともに、利水者との情報連絡体制を整備して河川流量やダム貯留量等の情報収集及び提供に努めます。」と見直しました。
(P71) 「正常な機能の維持を維持する」は「正常な機能を維持する」と記載すべき	

頁	五ヶ瀬川水系河川整備計画（原案）	五ヶ瀬川水系河川整備計画（案）
P71	<p>4.3.2 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項</p> <p>(1) 河川水の利用</p> <p>河川環境の保全や既得用水の取水の安定化等、流水の正常な機能の維持を維持するため、水量・水質の監視を行うとともに、利水者との情報連絡体制を整備して河川流量やダム貯留量等の情報収集及び提供に努めます。</p> <p>(2) 河川の水質保全</p> <p>河川の水質については、定期的測定調査項目に基づき、継続して実施します。また、関係機関等と調整し、流域全体での汚濁負荷の削減に努めます。</p>  <p>図 4-3-8 水質調査地点位置図</p>	<p>4.3.2 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項</p> <p>(1) 河川水の利用</p> <p>河川環境の保全や既得用水の取水の安定化等、流水の正常な機能を維持するため、上流の自治体・関係機関等と連携を図りながら水量・水質の監視を行うとともに、利水者との情報連絡体制を整備して河川流量やダム貯留量等の情報収集及び提供に努めます。</p> <p>特に、五ヶ瀬川と大瀬川の適切な分流に努めるなど動植物の生息・生育環境に配慮した水量の維持、監視に努めます。</p> <p>また、濁水等の被害を最小限に抑えるため、濁水発生時の情報提供体制を確立するとともに、広域かつ合理的な視野に立った水利使用者相互間の水融通の円滑化に向けた取組みを関係機関及び水利使用者と連携して推進します。</p> <p>(2) 河川の水質保全</p> <p>河川の水質については、今後も引き続き水質の状況を把握するとともに、関係機関等と調整し、流域全体での汚濁負荷の削減に努めます。</p>  <p>図 4-3-8 水質調査地点位置図</p>

五ヶ瀬川水系河川整備計画（原案）と五ヶ瀬川水系河川整備計画（案）との対比表

意見	対応
「調整の場を設立に努めます」は「調整の場の設立に努めます」と記載すべき	計画案 P74「調整の場の設立に努めます」と修正しました。

頁	五ヶ瀬川水系河川整備計画（原案）	五ヶ瀬川水系河川整備計画（案）
P74	<p>河川の水質については、BOD などの生活環境項目、健康項目について水質調査を継続して実施するとともに、調査結果については公表します。</p> <p>水質改善については、五ヶ瀬川水系水質汚濁防止連絡協議会等を通じて、地域住民へ水質保全に関する啓発活動を行い、各家庭での調理くずの処理や使用後の食用油の処理、洗剤の適正な使用などの啓発を行っていき、さらに、小学生をはじめ子供達を対象とした水生生物の観察を通じての学習活動などを支援し、流域住民とともに生きた自然の教材である五ヶ瀬川の水質保全・環境意識の向上に取り組みます。</p> <p>また、河川美化啓発活動を通じたゴミ拾いなどの河川の清掃・美化活動を引き続き支援していきます。</p>  <p>写真 4-3-6 五ヶ瀬川の源流を調査</p>  <p>写真 4-3-7 河川美化を呼びかける看板設置</p>  <p>写真 4-3-8 河川美化啓発活動キャラバン隊</p>  <p>写真 4-3-9 川にすむ生物の種類を調査</p> <p>(3) 渇水時の管理</p> <p>渇水時における河川環境の保全と取水の安定化等のため、水量・水質の監視を行います。</p> <p>五ヶ瀬川水系において、異常な渇水等により河川流量が減少し、渇水対策が必要となった場合は、関係機関と連携して被害の軽減に努めます。</p> <p>このため、祝子川においては、関係機関で構成されている「祝子川渇水対策協議会」を中心に水利使用の調査を図るとともに、必要が生じた場合は、各水系を対象とした調整の場を設立に努めます。</p> <p>また、日頃から河川管理者と利水者相互の情報交換を行って理解を深め、渇水時の水利調整の円滑化を図ります。</p>	<p>河川の水質については、BOD などの生活環境項目、健康項目等について水質調査を継続して実施するとともに、調査結果を公表します。</p> <p>水質改善については、五ヶ瀬川水系水質汚濁防止連絡協議会等を通じて、地域住民へ各家庭での調理くずの処理や使用後の食用油の処理、洗剤の適正な使用などの水質保全に関する啓発活動を行います。さらに、小学生をはじめ子供達を対象とした水生生物の観察を通じての学習活動などを支援し、流域住民とともに生きた自然の教材である五ヶ瀬川の水質保全・環境意識の向上に取り組みます。</p> <p>また、河川美化啓発活動を通じたゴミ拾いなどの河川の清掃・美化活動を引き続き支援していきます。</p>  <p>写真 4-3-6 五ヶ瀬川の源流を調査</p>  <p>写真 4-3-7 河川美化を呼びかける看板設置</p>  <p>写真 4-3-8 河川美化啓発活動キャラバン隊</p>  <p>写真 4-3-9 川にすむ生物の種類を調査</p> <p>(3) 渇水時の管理</p> <p>五ヶ瀬川水系において、異常な渇水等により河川流量が減少し、渇水対策が必要となった場合は、関係機関と連携して被害の軽減に努めます。</p> <p>祝子川においては、関係機関で構成されている「祝子川渇水対策協議会」を中心に水利使用の調査を図るとともに、必要が生じた場合は、各河川を対象とした調整の場の設立に努めます。</p> <p>また、日頃から河川管理者と利水者相互の情報交換を行い理解を深めることで、渇水時の水利調整の円滑化を図ります。</p>

五ヶ瀬川水系河川整備計画（原案）と五ヶ瀬川水系河川整備計画（案）との対比表

意見	対応
「水質事故に円滑な対応」は「水質事故に対して円滑な対応」と記載すべき	計画案 P75 を「水質事故に対して円滑な対応」と修正しました
「原因物質の特定のための調査」は「原因物質特定のための調査」と記載すべき	計画案 P75 を「原因物質特定のための調査」と修正しました。

頁	五ヶ瀬川水系河川整備計画（原案）	五ヶ瀬川水系河川整備計画（案）
P74	<p>(4) 水質事故時の対応</p> <p>水質事故発生時には、「五ヶ瀬川水系水質汚濁対策連絡協議会」（以下「協議会」という）を構成する関係機関に通報するとともに、事故や被害の状況を把握し、原因物質の特定のための調査と必要に応じて水質試験を行い、適切な箇所でおイルフェンス、吸着マットなどを設置し、下流への被害の拡散防止を図ります。</p> <p>また、水質事故に円滑な対応が図れるように、河川巡視の継続実施や協議会との連携により早期発見と適切な対処に努め、水質事故管理体制の強化や水質事故訓練等を今後も継続実施していきます。</p>  <p>写真 4-3-10 五ヶ瀬川水系水質汚濁対策連絡協議会</p> <p>水質事故発生時に、協議会を構成する関係機関と連携し、被害の拡大防止に努めます。</p>  <p>写真 4-3-11 オイルフェンス、吸着マットの設置状況 (水質事故訓練にて)</p>	<p>(4) 水質事故時の対応</p> <p>水質事故発生時には、「五ヶ瀬川水系水質汚濁防止連絡協議会」を構成する関係機関に通報するとともに、事故や被害の状況を把握し、必要に応じて水質試験等原因物質特定のための調査を行い、適切な箇所でのオイルフェンス、吸着マットなどの設置により、被害の拡大防止を図ります。</p> <p>また、水質事故に対して円滑な対応を図るべく、協議会と連携しながら水質事故管理体制の強化や水質事故訓練等を実施します。</p>  <p>写真 4-3-10 五ヶ瀬川水系水質汚濁防止連絡協議会</p>  <p>写真 4-3-11 オイルフェンス、吸着マットの設置状況 (水質事故訓練にて)</p>

五ヶ瀬川水系河川整備計画（原案）と五ヶ瀬川水系河川整備計画（案）との対比表

意見	対応
行政にお願いすることと、自らやっていくことを記載すべきでは。	「延岡アースデイ」の活動を記載しているが、住民主体の活動であることを記載していないため、住民主体で行われている旨を記載します。

頁	五ヶ瀬川水系河川整備計画（原案）	五ヶ瀬川水系河川整備計画（案）
P77	<p>(4) ゴミ、流草木、不法投棄対策</p> <p>洪水時などにおけるゴミや流草木などの流出については、地域住民や関係機関などと連携し、できるだけ早く処理できるように努めます。</p> <p>また、河川区域内に不法に投棄されたゴミや河川敷地の不法占用等は、流水の阻害となるばかりか、河川環境を損ない、河川利用を妨げるなど種々の障害を引き起こす原因になります。このため、河川巡視により監視を行い、未然防止に努め、不法投棄処理については延岡市や警察と連携し監督処分を含めて対応を行います。</p> <p>さらに、「延岡アースデイ」などの河川の清掃・美化活動を通じてゴミの持ち帰りやマナー向上の啓発的な取り組みも実施します。</p> <div data-bbox="382 953 839 1297" data-label="Image"> </div> <p data-bbox="382 1304 706 1333">写真 4-3-13 不法投棄状況</p> <div data-bbox="884 953 1359 1297" data-label="Image"> </div> <p data-bbox="884 1304 1172 1333">写真 4-3-14 注意看板</p> <div data-bbox="543 1350 1092 1766" data-label="Image"> </div> <p data-bbox="543 1770 973 1799">写真 4-3-15 河川の清掃・美化活動</p>	<p>(4) ゴミ、流草木、不法投棄対策</p> <p>洪水時などにおけるゴミや流草木などの流出については、地域住民や関係機関などと連携し、できるだけ早く処理できるように努めます。</p> <p>また、河川区域内に不法に投棄されたゴミや河川敷地の不法占用等は、流水の阻害となるばかりか、河川環境を損ない、河川利用を妨げるなど種々の障害を引き起こす原因になります。このため、河川巡視により監視を行い、未然防止に努め、不法投棄処理については延岡市や警察と連携し監督処分を含めて対応を行います。</p> <p>さらに、<b>市民団体を中心に、行政・企業のも一体となった「延岡アースデイ」</b>などの河川の清掃・美化活動を通じてゴミの持ち帰りやマナー向上の啓発的な取り組みも実施します。</p> <div data-bbox="1685 1010 2139 1354" data-label="Image"> </div> <p data-bbox="1685 1360 2009 1390">写真 4-3-13 不法投棄状況</p> <div data-bbox="2184 1010 2656 1354" data-label="Image"> </div> <p data-bbox="2184 1360 2472 1390">写真 4-3-14 注意看板</p> <div data-bbox="1843 1402 2392 1818" data-label="Image"> </div> <p data-bbox="1843 1822 2273 1852">写真 4-3-15 河川の清掃・美化活動</p>

五ヶ瀬川水系河川整備計画（原案）と五ヶ瀬川水系河川整備計画（案）との対比表

意見	対応
林業者の活動を入れて頂きたい。名称は後日事務局の方に連絡する。	森林保全に取り組む関係機関との連携をより具体的に示すため計画案 P81 に「また、森林は山から海に至る健全な水循環を確保する上で大きな役割を果たしているため、森林の多面的な機能が保全されるよう「五ヶ瀬川ふるさと水回廊倶楽部」「高千穂森の会」等を通じて森林保全に取り組む関係機関及び、市民団体等が行う活動に協力するなど連携に努めます。」と記載しました。

頁	五ヶ瀬川水系河川整備計画（原案）	五ヶ瀬川水系河川整備計画（案）
P78	<p>5. 五ヶ瀬川の川づくりの進め方</p> <p>5.1 関係機関、地域住民との連携</p> <p>五ヶ瀬川を常に安全で適切に利用・管理する気運を高め、より良い河川環境を地域ぐるみで積極的に形成することを目的に、河川管理者として収集した情報や河川利用に関する情報等を掲載したポスター、パンフレット、副読本等を作成するとともにインターネット等により幅広く PR 活動を行い、情報の共有化を行います。</p> <p>特に、五ヶ瀬川の河川清掃やイベント等の地域住民の自主的な活動に対しては、安全で多数の地域住民が参加できるよう、活動に必要な河川情報を積極的に提供する等の支援を行います。</p> <p>これらにより、地域住民が五ヶ瀬川に関わる機会を設け、日常の維持管理（川の 365 日）においては、従来の河川管理者だけが行ってきた河川管理から、「五ヶ瀬川は地域みんなのもの」との認識に立った住民との協力・分担による河川管理への転換を推進していきます。</p> <p>また、水害を受けないためには、「自助・共助・公助」が連携して機能することが必要不可欠であり、国・県・市からなる災害に強い地域づくりの推進を目的とする『「みずからまもる」プロジェクトチーム』を設立し、災害情報の提供体制の構築・強化、洪水ハザードマップの作成や個人・地域の防災力の向上を進めていきます。また、森林は山から海に至る健全な水循環を確保する上で大きな役割を果たしているため、森林の多面的な機能が保全されるよう「五ヶ瀬川ふるさと水回廊倶楽部」等を通じて森林保全に取り組む関係機関及び、市民団体等が行う活動に協力するなど連携に努めます。</p> <div data-bbox="326 1470 1305 1911"> <p>The diagram illustrates the 'みずからまもる' (Self-Protect) project and its partnership with local residents. It is divided into three main sections: '自助' (Self-help), '共助' (Mutual aid), and '公助' (Public aid). '自助' focuses on individual safety through self-preparation. '共助' involves community support for disaster prevention. '公助' involves public support for disaster prevention. The partnership section shows various stakeholders like school groups, local residents, NPOs, and government agencies participating in activities like river cleaning and environmental education.</p> </div>	<p>5.2 関係機関、地域住民との連携</p> <p>五ヶ瀬川を常に安全で適切に利用・管理する気運を高め、より良い河川環境を地域ぐるみで積極的に形成することを目的に、河川管理者として収集した情報や河川利用に関する情報等を掲載したポスター、パンフレット、副読本等を作成するとともにインターネット等により幅広く PR 活動を行い、情報の共有化を行います。</p> <p>特に、五ヶ瀬川の河川清掃やイベント等の地域住民の自主的な活動に対しては、安全で多数の地域住民が参加できるよう、活動に必要な河川情報を積極的に提供する等の支援を行います。</p> <p>これらにより、地域住民が五ヶ瀬川に関わる機会を設け、日常の維持管理（川の 365 日）においては、従来の河川管理者だけが行ってきた河川管理から、「五ヶ瀬川は地域みんなのもの」との認識に立った住民との協力・分担による河川管理への転換を推進していきます。</p> <p>また、森林は山から海に至る健全な水循環を確保する上で大きな役割を果たしているため、森林の多面的な機能が保全されるよう「五ヶ瀬川ふるさと水回廊倶楽部」「高千穂森の会」等を通じて森林保全に取り組む関係機関及び、市民団体等が行う活動に協力するなど連携に努めます。</p> <div data-bbox="1602 1407 2730 1848"> <p>This block contains a photograph of a group of people participating in a river cleanup activity, and a diagram titled '地域住民とのパートナーシップ' (Partnership with Local Residents). The diagram shows a network of stakeholders including school groups, local residents, NPOs, and government agencies, all contributing to river management and environmental education. It highlights the role of 'Takikobu Mori no Kai' and other organizations in supporting these activities.</p> </div> <p>写真 5-1-1 高千穂森の会活動状況</p>